

科目名	生活と環境 D	担当教員	藤原 英一
英語科目名	Life Science and the Environment D	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	HL-2231
科目区分	人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☒ 体系的な知識・技能 ☒ 論理的思考力と創造力 ☒ 人間関係形成・社会形成能力 ☐ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ☒ 諸課題の理解と課題対応能力 ☐ 統合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	資格・免許の要件なし
(3)授業の内容	これからの時代にふさわしい生活環境のあり方、人や環境にやさしい生活者、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを学ぶ。
(4)授業の到達目標	持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる人と自然にやさしい生活環境づくりに向けて、以下のとおり、我々が行動すべきこと、地域社会に働きかけるべきことを体得することを目標とする。 ☐ 人と環境にやさしいまちづくりに関する知識・考え方を体得する ☐ 人と環境にやさしいライフスタイル・暮らし方に関する知識・考え方を体得する ☐ ワークショップ手法を通じて、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる能力を高める
(5)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	授業は講義形式を中心とし、節目節目において課題のプレゼンテーションを交える。 第1回：まちづくりとは 事前学習：まちづくりに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第2回：景観と景観まちづくり～暮らしを豊かにする風景・景観～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第3回：デザイン～社会問題を解決するデザイン～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第4回：幸せな地域にあるもの①～社会の課題・地域の課題とその解決策～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第5回：幸せな地域にあるもの②【グループワーク】 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：グループワークでの調査(2時間) 第6回：幸せな地域にあるもの③【グループワーク】 事前学習：グループワークに関する事前調査(2時間) 事後学習：グループワークの復習(2時間) 第7回：コンパクトシティ①～今後必要となるライフスタイル・暮らし方～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第8回：コンパクトシティ② 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第9回：シビックプライド①～まちと自分の関係～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習。(2時間)

	第10回：シビックプライド②【グループワーク】 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査。(2時間) 事後学習：グループワークの復習(2時間) 第11回：リノベーションまちづくり～豊かな暮らし、自分がしたい暮らし方 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第12回：公共空間の再構築①～これからの時代に必要な公共空間～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第13回：公共空間の再構築② 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第14回：公共空間の最構築③+ワークショップⅣ【グループワーク】 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：グループワークでの調査(2時間) 第15回：私たちが考えるこれからのまちづくりの提案【発表(プレゼンテーション)】 事前学習：プレゼンテーションの作成(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	出席状況・出欠アンケートの内容60%、ワークショップの内容20%、受講姿勢・意欲20%で評価を行うことを基本としつつ、受講姿勢・意欲等を踏まえて定期試験を実施する。
(9)成績評価基準	成績評価の基準は、授業の到達目標に対する学修成果の達成度を以下の基準に基づいて評価する。 ○人と環境にやさしいまちづくり・ライフスタイルに関して必要となる視点やその理由に関する理解度 ○ワークショップ手法の理解度、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる技術等の体得状況 ○自ら学びをデザインする意識・行動
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(総合建設コンサルタント(都市計画・まちづくり等)勤務) 実務経験と授業内容との関連性：(都市計画やまちづくりの専門家としての経験を有する教員が、まちづくり、景観、シビックプライド等の視点から、持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる知識や考え方の体得、地域社会に対して主体的に行動する意識の醸成を目的として講義を行う。)
(12)テキスト・参考図書	参考文献 『地域を変えるデザイン』 寛裕介著(英治出版)2011年 『都市から学んだ10のこと まちづくりの若き仲間たちへ』 西村幸夫著(学芸出版社)2019年 『都市計画学: 変化に対応するプランニング』 中島直人他著(学芸出版社)2018年 『まちづくりプロジェクトの教科書』 小地沢 将之(森北出版)2020年 『公民連携まちづくり事例&解説 エリア再生のためのPPP』 日経アーキテクチュア(2022) 『みんなの都市 初心者のための都市計画マニュアル』 オサム・オカムラ／著(鹿島出版会) 他
(13)その他(受講上の注意)	授業の妨げとなる行為(私語、携帯、受講姿勢不良等)が著しい者には退席を命ずることがある。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	キャリア・デザインⅡ	担当教員	升田 法継
英語科目名	Career Design Ⅱ	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	HL-2260
科目区分	人間生活学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	□体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学修経験 ■キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	資格・免許の要件については学生便覧参照のこと
(3)授業の内容	社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。
(4)授業の到達目標	・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。 ・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：キャリア・デザインとは 事前学習：初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：ライフストーリーⅠ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：ライフストーリーⅡ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：ライフストーリーⅢ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：ライフストーリーⅣ（グループワーク・発表） 事前学習：各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：「はたらく」とは 事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：業界研究 事前学習：業界全体の概要について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：職業理解Ⅰ 事前学習：金融業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※金融業界は予定です（変更する場合があります）。 第9回：職業理解Ⅱ 事前学習：マスコミ業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※マスコミ業界は予定です（変更する場合があります）。 第10回：職業理解Ⅲ 事前学習：流通・小売業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間)

	事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※流通・小売業界は予定です（変更する場合があります）。 第11回：ライフ・デザイン 事前学習：ライフ・デザインについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12回：インターンシップ 事前学習：インターンシップの心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第13回：就職活動 事前学習：就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第14回：自己理解 事前学習：自己理解について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第15回：まとめ 事前学習：「はたらく」ことと大学生活での「学び」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	課題に対する活動内容・提出物・レポート(70%)、平常点(30%) ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
(9)成績評価基準	・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて) ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元情報通信会社管理職（人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当）) 実務経験と授業内容との関連性：(企業（業種：情報通信、社員数：約26万人）の管理職（主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等）経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。)
(12)テキスト・参考図書	テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。
(13)その他（受講上の注意）	民間企業を前提としたプログラム構成となっており、幅広い視野を養うことを狙いとしています。 なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)☐ (2)☐ (3)☐ (4)☐ (5)☐ (6)☐ (7)☐ (8)☐ (9)☐ (10)☐ (11)－ (12)☐ (13)☐ (14)－
-------------------	---

科目名	臨床栄養学Ⅰ(栄養療法)	担当教員	佐藤 裕保
英語科目名	Clinical NutritionⅠ (Dietetic Therapy)	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-A-2245
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)
(3)授業の内容	消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について学習する。
(4)授業の到達目標	疾病と栄養・食事療法の関連を理解する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：ガイダンス、傷病者に対する栄養(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第2回：消化器疾患：逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第3回：消化器疾患：クローン病・潰瘍性大腸炎(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第4回：消化器疾患：急性肝炎・慢性肝炎(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第5回：消化器疾患：肝硬変・膵炎(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第6回：代謝疾患：糖尿病(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第7回：代謝疾患：肥満・メタボリックシンドローム(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第8回：代謝疾患：脂質異常症(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第9回：代謝疾患：高尿酸血症(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第10回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第11回：循環器疾患：高血圧(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第12回：腎疾患：慢性腎臓病(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第13回：腎疾患：透析(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症(その他)

	事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第15回：小児疾患：食物アレルギー・質疑応答(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第16回：定期試験 事前に資料を配布およびe-ラーニングにUPするので、事前学習に用いること。その際、基礎科目との知識の連携を心がけること。併せて、各疾病と関連する解剖生理学・生化学などの復習を含めること。 事後学習においては、関連する基礎科目の知識と統合できるように復習すること。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)
(9)成績評価基準	疾病と食事・栄養療法の関連を説明することができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング ■ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ■ 定期試験時 □ 仁大eラーニング ■ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院勤務経験を活かし、疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について解説する。)
(12)テキスト・参考図書	必要に応じて資料配布
(13)その他(受講上の注意)	毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	臨床栄養学Ⅲ(チーム医療)	担当教員	佐藤 裕保
英語科目名	Clinical Nutrition III (Team Healthcare)	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年前期
選択区分	選択	ナンバリング	HN-A-2347
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(3)授業の内容	チーム医療における管理栄養士の役割、医療・介護保険における管理栄養士業務について学習する。 チーム医療の一員として活動するための知識を学習する。
(4)授業の到達目標	チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：ガイダンス、チーム医療への参画がなぜ必要か(その他) 事前学習：チーム医療について、図書館・インターネットなどにて予習(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第2回：NST・ターミナルケア(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第3回：管理栄養士としての倫理(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第4回：米国のRD(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第5回：リスクマネジメント・災害時対応(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第6回：クリティカルパス(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第7回：医薬品と食品の相互作用Ⅰ(医薬品とは)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第8回：医薬品と食品の相互作用Ⅱ(実例)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第9回：医療保険制度Ⅰ(制度概要・入院時食事療養)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第10回：医療保険制度Ⅱ(特別食加算)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第11回：医療保険制度Ⅲ(入院基本料・NST加算)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第12回：医療保険制度Ⅳ(栄養食事指導料)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第13回：介護保険制度(制度概要・療養食加算・居宅療養管理指導)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第14回：医療・介護保険制度まとめ(グループワーク)(その他)

	事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第15回：チーム医療における管理栄養士・質疑応答(グループワーク)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第16回：定期試験 事前に資料を配布およびe-ラーニングにUPするので、事前学習に用いること。 事後学習においては、他の臨床栄養学科目の知識と統合できるように復習すること。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急速、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)
(9)成績評価基準	チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について説明することができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング ■ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング ■ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院勤務経験を活かし、管理栄養士に係る医療保険および介護保険の実際、医療施設および介護施設における、多職種連携の実際について解説する。)
(12)テキスト・参考図書	必要に応じてプリント配布
(13)その他(受講上の注意)	毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	学校栄養教育の理論と方法	担当教員	牧野 みゆき、清川 ひろみ
英語科目名	School Health Education	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年前期
選択区分	選択	ナンバリング	HN-C-2375
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	栄養に係る教育に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 食生活に関する歴史的及び文化的事項		
求める学習成果（教育目標）	学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ☐ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ☐ 統合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	栄養教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら学修する。
(4)授業の到達目標	栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができる。
(5)アクティブ・ラーニング	■課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 栄養教諭の役割と職務内容(牧野) 事前学習：授業前にテキストp1-13、19-27を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第2回： 食生活の機能(牧野) 事前学習：授業前に事前配布資料(第 1 回に配布予定)を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第3回： 児童および生徒の栄養に係る諸問題、健康なからだをつくる食事(牧野) 事前学習：授業前にテキストp37-40を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第4回： 児童生徒の食生活の現状と問題点(牧野) 事前学習：授業前に事前配布資料(第3回に配布予定)とテキストp40-46を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第5回： 日本の食文化と学校教育 (牧野) 事前学習：授業前に事前配布資料(第4回に配布予定)を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第6回： 学校給食の変遷と意義・目的・献立の充実 (牧野) 事前学習：授業前にテキストp28-36を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第7回： 学校給食の栄養・衛生・安全管理(清川) 事前学習：食品衛生学や給食経営管理論で学習した内容を復習しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第8回： 学校から家庭に対する食情報提供(1)「給食たより」の作成(清川) 【課題解決型学習】 事前学習：自身の母校や出身自治体が出している「献立表」や「給食たより」を入手し、どのような内容が書かれているかを確認しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィシアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第9回： 学校から家庭に対する食情報提供(2)「給食たより」の発表(清川) 【発表・プレゼンテーション】 事前学習：第9回では、各自作成の給食たよりの発表を行うので、事前に必要な資料をもとに給食たよりを作成しておくこと。(2時間) 事後学習：他の学生の作成した「たより」の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、自身の作成したたよりを見直しておくこと。(2時間) 第10回： 食に関する啓発の推進(1)講話の演習 指導案作成(清川) 【課題解決型学習】 事前学習：第10回の講義では、給食の時間に行う児童・生徒への指導を考えてもらうので、テキストや食に関する指導の手引きをも

	とに、これまでに学習した内容を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第11回：食に関する啓発の推進(2)教材作り(清川) 事前学習：第11回の講義では、給食時間の指導用教材の作成を行うので、事前に必要な資料を図書館などで調べたり、収集しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第12回：学校給食における地場産物の活用方法(清川) 事前学習：これまでの学習した内容を振り返り、地場産物を学校給食や教育に活用する理由について自分の考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第13回：福井県の食育の先人、石塚左玄の訓えに学ぶ(清川) 事前学習：福井県内の児童生徒が活用している「食育チャレンジ」から石塚左玄について読み解き、左玄の訓えと段階をおった指導にふれておく。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第14回：食に関する啓発の推進(3)発表と評価①(清川・牧野) 【発表・プレゼンテーション】 事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人5分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。(2時間) 事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。(2時間) 第15回：食に関する啓発の推進(3)発表と評価②(清川・牧野) 【発表・プレゼンテーション】 事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人5分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。(2時間) 事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	レポート60%、平常点40% 平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業、提出物の内容等から総合的に評価する。
(9)成績評価基準	栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元福井県栄養教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(栄養教諭としての実務経験を活かし、栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら理解を深めていく。)
(12)テキスト・参考図書	<テキスト> 四訂栄養教諭論 第2版－理論と実際－，金田雅代著，建帛社，2022年 食に関する指導の手引 第二次改訂版，文部科学省，健学社，2019年 <参考図書> 栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート：1年次から使えるポートフォリオ，芦川修貳 監修，学建書院，2021年
(13)その他（受講上の注意）	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－
-------------------	---

科目名	運動生理学	担当教員	鳴瀬 碧
英語科目名	Exercise Physiology	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-B-2218
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)
(3)授業の内容	運動はスポーツ選手のみならず一般の人々の体力づくりや健康の維持・増進に欠くことができない。しかし、運動の効果は運動の種類、強度、時間、頻度などによって異なるため運動についての正しい知識が求められる。筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて学ぶ。
(4)授業の到達目標	筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：健康と運動 事前学習：「健康の保持・増進」と運動の関係について、テキスト巻頭「はじめに」p.iii - iv、p.135-137、p.149-150を読み、また新聞・ニュース・書籍等で情報を収集するなどして、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、「健康の保持・増進」と運動の関係についてノートにまとめること(2時間) 第2回：安静時と運動時のエネルギー代謝 事前学習：テキスト第1章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第3回：運動と身体組成 事前学習：テキスト第2章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第4回：運動と呼吸・循環器系の機能① 事前学習：テキスト第3章p.29 - 33、p.34 - 35を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第5回：運動と呼吸・循環器系の機能② 事前学習：テキスト第3章p.33 - 34、p.35 - 37を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第6回：運動と骨格筋の機能 事前学習：テキスト第4章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第7回：運動と神経系の機能 事前学習：テキスト第4章p.51 - 52を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第8回：運動と中間代謝・内分泌系の機能① 事前学習：テキスト第5章p.57 - 60を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第9回：運動と中間代謝・内分泌系の機能② 事前学習：テキスト第5章p.60 - 63を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第10回：運動と中間代謝・内分泌系の機能③ 事前学習：テキスト第5章p.63 - 69を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第11回：環境と運動・栄養① 事前学習：テキスト第6章p71-78を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第12回：環境と運動・栄養② 事前学習：テキスト第6章p78-83を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第13回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅰ(糖質・たんぱく質・脂質) 事前学習：テキスト第7章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)

	第14回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ①(ビタミン・ミネラル・その他) 事前学習：テキスト第8章p.95 - 104読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第15回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ②(運動時の食事内容と摂取のタイミング) 事前学習：テキスト第8章p.104 - 109読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第16回：定期試験 予習では、各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、日常生活におけるスポーツや運動の効果について理解や関心を深める。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(9)成績評価基準	筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できている。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ■ その他(具体的に記述： Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述： 質問に対するフィードバックについて) ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング ■ メール ■ その他(具体的に記述： Teams)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(健康運動指導士・ピラティストレーナー・薬剤師) 実務経験と授業内容との関連性：(スポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士・ピラティストレーナー(個人事業主)としての実務経験を活かし、身体の構造と機能および運動時の生理機能の変化、健康増進のための運動、生活習慣病予防・改善のための運動と栄養、薬物療法中の運動のリスク等について解説する。また、スポーツと栄養についての講義では、スポーツファーマシストとして、アスリートのサポートを行ってきた経験も交えて授業を展開する。)
(12)テキスト・参考図書	樋口満監修・湊久美子／寺田新編集、「・栄養・スポーツ系の・運動生理学」、南江堂
(13)その他(受講上の注意)	講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるようにすること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11)－ (12) ☐ (13) ☐ (14)－

科目名	公衆衛生学	担当教員	鳴瀬 碧
英語科目名	Public Health	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-B-2206
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)
(3)授業の内容	集団的に人を捉えた予防医学が公衆衛生学であり、人々の健康状態の現状について学び、健康保持・増進を目的とした法律および施策について理解を深める。
(4)授業の到達目標	・公衆衛生の概念とその重要性について理解し、説明することができる。 ・人間を集団として捉え、人々の健康と環境および生活習慣との関わり、健康評価の方法等を理解し、説明することができる。 ・集団としての健康の保持・増進に関する法律および施策について理解し、説明することができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：社会と健康（前編） 事前学習：授業前にテキストの第1章p1～12を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題进行すること(2時間) 第2回：社会と健康（後編） 事前学習：授業前にテキストの第1章p12～25を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題进行すること(2時間) 第3回：環境と健康①(生態系と人々の生活) 事前学習：授業前にテキストの第2章p15～21、 p 31～33を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第4回：環境と健康②(環境汚染と健康) 事前学習：授業前にテキストの第2章p22～31、 p 33～37を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第5回：環境と健康③(上水道と下水道) 事前学習：授業前にテキストの第2章p37～40を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第6回：環境と健康④（廃棄物処理、放射線、建築物衛生） 事前学習：授業前にテキストの第2章p24、 p40～42を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第7回：保健・医療・福祉の制度① 事前学習：授業前にテキストの第7章p183～194を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第8回：保健・医療・福祉の制度② 事前学習：授業前にテキストの第7章p194～200を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第9回：地域保健 事前学習：授業前にテキストの第8章p201～209を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第10回：母子保健 事前学習：授業前にテキストの第9章p211～222を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第11回：成人保健 事前学習：授業前にテキストの第10章p223～ p 235を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第12回：高齢者保健・介護 事前学習：授業前にテキストの第11章p237～250を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第13回：産業保健 事前学習：授業前にテキストの第12章p251～264を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間)

	第14回：学校保健 事前学習：授業前にテキストの第13章p265～283を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第15回：国際保健 事前学習：授業前にテキストの第14章p285～292を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第16回：定期試験 新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学的重要性の理解に努めてください。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断する)
(9)成績評価基準	・公衆衛生の概念について理解できているか。 ・環境と健康について理解できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・健康増進のための取組みや疾病の予防対策について理解できているか。 ・保険・医療・福祉の制度や取組みについて理解できているか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ■ その他(具体的に記述： Teams) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述： 小テストに対するフィードバックについて) ■ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ■ その他(具体的に記述： Teams)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(薬剤師) 実務経験と授業内容との関連性：(薬剤師として医療提供施設での実務経験を活かし、国が展開する国民の健康づくりに関する施策、医療保険をはじめとする社会保障の仕組み、老人保健、母子保健、地域保健、産業保健、国際保健等、保健・医療・福祉の制度について解説する。)
(12)テキスト・参考図書	鳴瀬 碧 編著 ステップアップ栄養・健康科学『社会・環境と健康』 化学同人 2024年
(13)その他 (受講上の注意)	・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11) - (12) ☒ (13) ☐ (14) -

科目名	公衆衛生学実習	担当教員	鳴瀬 碧
英語科目名	Public Health Practicum	単位	1単位
開講形態	実習	配当年次	3年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-E-2307
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分	(空白)		
科目に含めることが必要な事項	(空白)		
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）
(3)授業の内容	公衆衛生管理に関する実験とグループ学習。 人々の健康を社会集団として捉え、その社会集団の健康の維持増進を目的として、環境因子（水、光、温度等）と健康、環境因子の異常原因、疾病の予防等について改善技術や方策などを理解する。
(4)授業の到達目標	・公衆衛生学の講義で習得した基礎的知識を実習を通してより深く理解する。 ・人々の健康問題に関心を持ち、問題を掘り起こし、健康の維持増進のための解決法の開発に貢献できる能力を習得する。 ・チーム医療や保健衛生に関わる業務に必要な協調性とコミュニケーション能力を養成する。
(5)アクティブ・ラーニング	■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：ガイダンス 保健統計・疫学①（疫学概念・疫学の指標）（実習、フィールドワーク） グループ調査研究①（テーマ選定）（PBL、グループワーク） 第2回：保健統計・疫学②（疫学の方法、疫学の効果指標）（実習、フィールドワーク） 第3回：保健統計・疫学③（検査の指標とスクリーニング）（実習、フィールドワーク） 第4回：保健統計・疫学④（統計解析）（実習、フィールドワーク） 第5回：環境衛生測定①（室内・屋外環境測定①：気温、気湿、気流、照度、騒音等）（実験、実技、グループワーク） 第6回：環境衛生測定②（室内・屋外環境測定②：浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド等）（実験、実技、グループワーク） 第7回：環境衛生測定③（飲料水の水質検査①：硬度、残留塩素、細菌試験）（実験、実技） 第8回：環境衛生測定④（飲料水の水質検査②：第7回のつづき、まとめ）（実験、実技） 第9回：環境衛生測定⑤（公共用水の水質検査①：DO、BOD、COD等）（実験、実技） 第10回：環境衛生測定⑥（公共用水の水質検査②：第9回のつづき、まとめ）（実験、実技） 第11回：グループ調査研究②（調査手法の検討）（PBL、グループワーク） 第12回：グループ調査研究③（情報収集および分析①）（PBL、実習、フィールドワーク、グループワーク） 第13回：グループ調査研究④（情報収集および分析②）（PBL、実習、フィールドワーク、グループワーク） 第14回：グループ調査研究⑤（プレゼンテーション資料の作成）（PBL、討議、実習、フィールドワーク、グループワーク） 第15回：グループ調査研究⑥（調査研究成果のプレゼンテーション）（PBL、討議、グループワーク、発表） 第16回：定期試験 新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。 各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学的重要性の理解に努めてください。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験（20%）、レポート（30%）、調査研究発表および報告書（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題への取り組み方等を総合して判断する）
(9)成績評価基準	・環境衛生の分析方法および結果の評価方法を習得できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・疫学概念、その方法および評価指標について理解できているか。 ・グループで他者と強調して、調査テーマの選定、調査計画の立案、情報収集、情報の疫学的分析およびディスカッションを行い、得られた成果をまとめることができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール ■その他（Teams） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール ■その他（Teams）

	3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール ■その他 (Teams) 4) 定期試験 (レポート試験を含む) に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ■仁大eラーニング ■メール ■その他 (Teams) 5) その他 (質問に対するフィードバックについて) ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール ■その他 (Teams)
(11)実務経験のある 教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(薬剤師・健康運動指導士) 実務経験と授業内容との関連性：(薬剤師として医療提供施設での実務経験とスポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士としての実務経験を活かし、健康・疾病・行動に関わる統計資料の活用方法、健康状態・疾病の測定と評価等について実習を通して理解を深めていく。)
(12)テキスト・参考 図書	角野 猛 他 編著 『新版 公衆衛生学実験・実習』 建帛社 2022年 参考書：鳴瀬 碧 編著 ステップアップ栄養・健康科学『社会・環境と健康』 化学同人 2024年 その他、必要に応じて、資料 (実験ノート) を配布する。
(13)その他 (受講上の注意)	・公衆衛生学の講義やテキスト、参考書により、あらかじめ自分達 (5 ～7 名程度のグループ) がどのような研究をしたいか、どのような研究ができるかを考えておいて欲しい。 ・授業中の携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☒ (7) ☐ (8) ☒ (9) ☐ (10) ☐ (11)－ (12) ☒ (13) ☐ (14)－

科目名	解剖生理学	担当教員	齋藤 正一
英語科目名	Anatomical Physiology	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-A-2110
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)
(3)授業の内容	正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も講義する。
(4)授業の到達目標	ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1 回： 細胞 事前学習：授業前にテキスト(解剖生理学 第1章1-5)を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事(2時間) 第2 回： 組織と器官 事前学習：授業前にテキスト(解剖生理学第 1章6.7)を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第3 回： 内部環境の恒常性(ディスカッション) 事前学習：授業前に配布された資料の空所を確認し、質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。テキストも参照する事。(2時間) 第4 回： 消化器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第5 回： 循環器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第6 回： 腎・尿路系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第7 回： 内分泌器官と分泌ホルモン 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第8 回： 神経系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第9 回： 感覚器系(聴覚、味覚、嗅覚、触覚) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第10回： 呼吸器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問

	する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第11回： 運動器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第12回： 生殖器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第13回： 血液・造血器・リンパ系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第14回： 免疫と生体防御 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第15回： まとめ 事前学習：授業前に第1回から第14回までに配布された資料、問題を見直し、不明な点をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第16回： 定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%) 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します)
(9)成績評価基準	ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(医師) 実務経験と授業内容との関連性：(病院での実務経験を活かし、人体の構造と機能がどのように密接に関連しているのかを理解できるように教授する。また正常な個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も実際の傷病者での回復経験等もふまえて解説する。)
(12)テキスト・参考図書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 第一出版 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版 羊土社 講義時にプリントを配布する。
(13)その他(受講上の注意)	講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	健康管理概論	担当教員	鳴瀬 碧
英語科目名	Preventive Medicine and Health Promotion	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-B-2208
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)
(3)授業の内容	健康の概念とその歴史的概念を理解する。個人、集団(地域、学校、職場など)を対象として、健康の維持・増進、疾病の予防、回復を目的として行う健康管理について、健康の概念と歴史、疫学、世界、我が国の人口統計、国民の健康づくり、生活習慣病の現状と予防、地域保健、ライフステージ別の保健、健康管理、学校・職場での健康管理などについて教授する。
(4)授業の到達目標	健康の概念とその歴史的概念および個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 健康概念、公衆衛生とその歴史(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストの第1章A.B.Dを読み「健康」の定義、例、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第2回： 疫学1(疫学の概念、疫学指標) 事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第3回： 疫学2(疫学的研究法) 事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第4回： スクリーニング、EBM、疫学研究と倫理 事前学習：授業前にテキストの第4章E.F.Hを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第5回： 保険統計1(人口統計、人口指標、人口特性) 事前学習：授業前にテキストの第3章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第6回： 保健統計2(生命表、平均寿命、健康寿命、疾病統計) 事前学習：授業前にテキストの第3章D.E.Fを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第7回： 健康づくり(健康の生物社会心理学モデル、生活習慣病・NCDの概念、健康日本21 グループワーク) 事前学習：授業前にテキストの第5章Aを読み、それぞれについて説明できる様にまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第8回： 生活習慣と健康1(身体活動・運動、喫煙) 事前学習：授業前にテキストの第5章C.D.を読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第9回： 生活習慣と健康2(飲酒、睡眠・休養・ストレス、歯科保健) 事前学習：授業前にテキストの第5章E.F.Gを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、配布された問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第10回： 主要疾患の疫学と予防1(生活習慣病) 事前学習：授業前にテキストの第6章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)

	する事。(2時間) 第11回： 主要疾患の疫学と予防2(感染症、精神疾患、自殺、不慮の事故、虐待暴力) 事前学習：授業前にテキストの第6章E.F.G.Hを読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第12回： 社会保障(医療制度、福祉制度、地域の保健予防システム) 事前学習：授業前にテキストの第7章、第8章を読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第13回： 高齢者・成人の健康管理、母子の健康管理、産業保健 事前学習：授業前にテキストの第10章、第11章。第12章を読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第14回： 学校の健康管理、国際保健 事前学習：授業前にテキストの第13章、第14章を読み質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第15回：まとめ 事前学習：授業前にこれまで学修した事を復習し、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第16回： 定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%) 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小試験の成績等を総合して判断します)
(9)成績評価基準	健康の概念とその歴史的概念および個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて □授業時 □ ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3)小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(健康運動指導士) 実務経験と授業内容との関連性：(薬剤師として医療提供施設での実務経験と健康運動指導士としてのスポーツ・健康増進関連施設での実務経験を活かし、人体の構造と機能がどのように密接に関連しているのかを理解できるように教授する。また正常な個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も実際の傷病者での回復経験等もふまえて解説する。)
(12)テキスト・参考図書	健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2024-25 南江堂 講義時にプリントを配布する。
(13)その他 (受講上の注意)	講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	臨床医学概論	担当教員	齋藤 正一
英語科目名	Medical Science Compendium	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-A-2217
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)
(3)授業の内容	栄養アセスメント、栄養療法を適切に行うためには、患者の病態を正確に把握することが重要である。その前提として、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について講義する。
(4)授業の到達目標	患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について説明できる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：臨床医学における診療、代謝性疾患 事前学習：授業前に基礎医学と臨床医学との相違、必要性、臨床医学における診療科と取り扱う疾患、代謝性疾患について、学習しまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第2回：糖尿病(分類、診断、合併症、治療) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、さらにインスリンの作用、糖尿病の分類、診断基準、合併症、治療についてまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第3回：栄養障害 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、糖尿病の合併症と治療、栄養障害について質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第4回：肥満とメタボリックシンドローム、脂質異常症 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第5回：ビタミン・微量元素欠乏症、過剰症(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所にある表の疾患についてしらべておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第6回：先天代謝異常 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第7回：呼吸器疾患 事前学習：授業前にテキスの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第8回：運動器疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第9回：妊娠合併症　血液疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第10回：感染症 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)

	事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第11回：動脈硬化症、高血圧、心疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第12回：電解質異常、酸塩基平衡異常 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、電解質異常、酸塩基平衡異常をきたす機序および疾患についてしらべておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第13回：腎疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第14回：消化管の疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第15回：肝疾患、脾疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第16回： 定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%) 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します)
(9)成績評価基準	患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、診断、症状、治療、予防について説明できる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(医師) 実務経験と授業内容との関連性：(病院での実務経験を活かし、患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防法などに関する講義を展開する。)
(12)テキスト・参考図書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 第一出版 (一年次、解剖生理学、病理学で使用したテキストを使用)
(13)その他(受講上の注意)	講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)☐ (2)☐ (3)☐ (4)☐ (5)☐ (6)☐ (7)☐ (8)☐ (9)☐ (10)☐ (11)－ (12)☐ (13)☐ (14)－

科目名	応用栄養学Ⅰ（成長・発達・加齢、食事摂取基準）	担当教員	新井田 裕樹
英語科目名	Applied NutritionⅠ（Development, Dietary Reference Intakes）	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年後期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-B-2135
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項	日本人の食事摂取基準の理論を理解し、活用利用できるよう理解する。		
求める学習成果（教育目標）	栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修)
(3)授業の内容	エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準(推定エネルギー必要量及び各策定項目)がどのような科学的根拠、すなわち、栄養学研究の成果に基づいて策定されているかのかの基礎理論i及び、栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。 また、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的变化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用について解説する。
(4)授業の到達目標	栄養環境への身体適応及び、エネルギー・栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、理解する。人体の成長・発達・加齢にともなう生理現象と生化学的变化、各ライフステージにおける食事摂取基準の特徴について知識を取得する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 食事摂取基準策定の基本的事項と留意事項 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の策定方針についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：策定方針で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。(2時間) 第2回： 食事摂取基準の活用 1 事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：指標の種類とその意味をノートにまとめておくこと。(2時間) 第3回： 食事摂取基準の活用 2 事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：この項目で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。(2時間) 第4回： エネルギーの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版のエネルギーの食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第5回： たんぱく質の摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第6回： 脂質の摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第7回： 炭水化物・食物繊維の摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の炭水化物の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第8回： エネルギー産生栄養素バランス 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版のエネルギー産生栄養素バランス についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第9回： 脂溶性ビタミンの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂溶性ビタミンの摂取基準の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間)

	第10回： 水溶性ビタミンの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の水溶性ビタミンの摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第11回： ミネラルの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の多量ミネラルの食摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第12回： 対象者の特性 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の対象特性についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第13回： 生活習慣病と摂取基準の関連1 事前学習：生活習慣病（高血圧、脂質異常症）について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第14回： 生活習慣病と摂取基準の関連2 事前学習：生活習慣病（糖尿病、慢性腎臓病）について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第15回： 成長・発達に伴う身体的・精神的变化と栄養について 事前学習：成長、発達、加齢の概念について自己学習し、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：言葉の定義をノートにまとめておくこと。(2時間) 第16回： 定期試験 各回の講義を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%)(平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断します。)
(9)成績評価基準	エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、説明できるか。人体の成長・発達・加齢にともなってみられる主要な生理現象と生化学的变化について説明できるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準がどのような科学的根拠に基づいて策定されているかの基礎理論i及び、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的变化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用ならびに栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。)
(12)テキスト・参考図書	応用栄養学 第3版(栄養科学イラストレイテッド)(羊土社) 日本人の食事摂取基準2025年版(第一出版) ※必要に応じてプリントを配布
(13)その他(受講上の注意)	授業計画は進捗状況により変更することがあります。 授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目の説明する。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)■ (13)■ (14)－

科目名	応用栄養学Ⅲ（ライフステージ 栄養学）	担当教員	新井田 裕樹
英語科目名	Applied Nutrition III (Life Stage)	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-B-2237
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☒体系的な知識・技能 ☒論理的思考力と創造力 ☐人間関係形成・社会形成能力 ☒職業観と職業的倫理観 ☐自己理解・自己管理能力 ☒諸課題の理解と課題対応能力 ☒統合的な学習経験 ☐キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(3)授業の内容	妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を学ぶ。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても学修する。
(4)授業の到達目標	各ライフステージの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解し、栄養管理を行える能力を養う。
(5)アクティブ・ラーニング	☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 妊娠期、胎児期、授乳期の特徴と栄養ケア・マネジメント 事前学習：ホルモン分泌および機能について理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第2回： 新生児期・乳児期の特徴1 事前学習：新生児期・乳児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第3回： 新生児期・乳児期の特徴2 事前学習：「新生児期・乳児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと(2時間) 第4回： 新生児期・乳児期の栄養・マネジメント 事前学習：乳児期の特徴を理解し、乳児期の栄養についてテキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第5回： 幼児期の特徴1 事前学習：幼児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第6回： 幼児期の特徴2 事前学習：「幼児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第7回： 幼児期の栄養・マネジメント 事前学習：幼児期の特徴について理解し、幼児期の栄養についてテキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第8回： 学童期の特徴と栄養・マネジメント 事前学習：学童期についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第9回： 小テスト、思春期の特徴と栄養・マネジメント 事前学習：性ホルモンの分泌と機能について理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第10回：成人期の生理的特徴 事前学習：生活習慣病についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間)

	第11回：成人期の栄養・マネジメント 事前学習：成人期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第12回：更年期の特徴 事前学習：思春期におけるホルモン分泌について理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第13回：更年期の栄養・マネジメント 事前学習：更年期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第14回：高齢期の特徴 事前学習：高齢期の特徴についてテキストを読み、理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第15回：高齢期の栄養・マネジメント 事前学習：高齢期の栄養についてテキストを読み、理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第16回：定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(80%)、平常点(20%)(平常点は授業への参加状況、課題提出状況等を総合的に判断する)
(9)成績評価基準	各ライフステージでの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解しているか。さらに、栄養管理の進め方を適切に説明できるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を解説する。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても解説する。)
(12)テキスト・参考図書	応用栄養学 第3版(栄養科学イラストレイテッド)(羊土社) 日本人の食事摂取基準2025年版(第一出版) ※必要に応じてプリントを配布
(13)その他(受講上の注意)	授業計画は進捗状況により変更することがあります。 授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	臨床栄養学実習Ⅲ(臨床栄養管理)	担当教員	山本 浩範、新井田 裕樹
英語科目名	Clinical Nutrition Practicum III (Nutritional Care Management)	単位	1単位
開講形態	実習	配当年次	3年後期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-E-2351
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■ 体系的な知識・技能 ■ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ■ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ■ 諸課題の理解と課題対応能力 ■ 統合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(3)授業の内容	傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うために、症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて、グループディスカッションを通して臨床栄養管理を実習する。
(4)授業の到達目標	各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができる。
(5)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ■ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 職業倫理と臨床栄養管理について (山本、新井田) 第2回： 栄養管理手順、医療情報の収集について (実習、発表) (山本、新井田) 第3回： 栄養ケア計画、栄養管理計画について (実習、発表) (山本、新井田) 第4回： 栄養管理計画書の作成 1、胃切除後患者 (実習、発表) (山本、新井田) 第5回： 栄養管理計画書の作成 2、慢性腎不全) (実習、発表) (山本) 第6回： 栄養管理計画(2型糖尿病) (実習、討議、発表) (山本) 第7回： 栄養管理計画(狭心症、動脈硬化) (実習、討議、発表) (山本) 第8回： 栄養管理計画(非代償性肝硬変) (実習、討議、発表) (山本) 第9回： 症例検討(脳梗塞、嚥下障害) (討議、発表) (山本) 第10回： 栄養指導、食に対する意欲がない方への対応、症例検討 (討議、発表) (山本) 第11回： 診療記録(SOAP 書き方) (討議、発表) (山本) 第12回： 肺機能のアセスメント、COPDの栄養管理 (討議、発表) (新井田) 第13回： 特定保健指導(階層分けと積極的支援) (実習、討議、発表) (新井田) 第14回： 特定保健指導(積極的支援プログラム) (実習、討議、発表) (新井田) 第15回： 特定保健指導(積極的支援プログラムにおける個人面談) (実習、討議、発表) (新井田) 第16回： 定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%)(授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。)
(9)成績評価基準	各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3)レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ■ その他(具体的に記述： 試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う) 5) その他(自由記述： に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)

(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、傷病者個々の病態や栄養状態に適した栄養管理を行う能力を養うための症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて実習する。)
(12)テキスト・参考図書	1)臨床栄養管理学実習、塚原丘美 編 栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2)栄養科学シリーズ 新・臨床栄養学 編者 竹谷豊ほか 講談社 3)日本糖尿病学会編 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 4)腎臓病食品交換表、黒川清 監修／中尾俊之 編集代表、医歯薬出版 5)必要に応じてプリント配布
(13)その他（受講上の注意）	授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)■ (12)■ (13)□ (14)－
-------------------	--

科目名	調理学	担当教員	佐藤 真実
英語科目名	Cookery Science	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-A-2128
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修) 食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)
(3)授業の内容	調理中の変化を科学的に解明し、健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理の理論を学ぶ。
(4)授業の到達目標	歴史や文化によって培われた食文化、食生活、健康、食料、環境問題といった人間と食べ物の関わりについて理解する。 調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について理解する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：人間と食品(食文化) 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第2回：人間と食品(環境)、食事設計の基礎 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第3回：食事設計の基礎 事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第4回：調理操作(加熱調理操作、非加熱調理操作、調味操作)、設備・器具・エネルギー源 事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第5回：食品の特徴に応じた調理の特性(食品成分) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.1を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第6回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品1) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第7回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品2) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第8回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品3) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第9回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品1) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第10回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品2) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第11回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品3) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第12回：食品の特徴に応じた調理の特性(抽出食品素材・その他) 事前学習：授業前にテキストの第3章6.4を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第13回：調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化 事前学習：授業前にテキストの第4章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間) 第14回：献立作成1(献立作成条件と手順)

	事前学習：授業前にテキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、図書館等で調べておくこと(2時間) 第15回：献立作成2(供食、食卓構成、食事環境) 事前学習：前回の授業で課された課題について、資料を収集しておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、完成させて提出をする(2時間) 第16回：定期試験 予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、予習ノートを作成すること。 復習として、講義の当該部分の配布資料などを見直して、ノート整理を行うこと。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(70%) 予習ノートの状況・小テスト・課題(20%) 平常点(10%) (予習ノートの状況・小テスト・課題は提出の有無と内容について、平常点は授業への参加状況(出欠) で判断します。)
(9)成績評価基準	調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について説明することができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング ■ メール □ その他(具体的に記述：小テストを実施し、その場で解答説明、返却します) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング ■ メール ■ その他(具体的に記述：レポート類は採点し、返却します) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、食事設計に必要な条件や具体的な調理科学理論について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト：西堀すき江編著 「マスター調理学」(第4版) 建帛社 参考図書：藤沢和恵 他 「現代調理学」 医歯薬出版 洲上倫子編著 「調理学」 朝倉書店 山崎清子 他 「調理と理論」 同文書院
(13)その他 (受講上の注意)	出席状況、授業への取り組み態度(小テスト含む)を重視する。必ず予習・復習を含む配布プリントの整理を行う。授業の計画予定は変更されることがある。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	調理学実習	担当教員	佐藤 真実
英語科目名	Cookery Science Practicum	単位	1単位
開講形態	実習	配当年次	1年前期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-E-2129
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリア「ランニング」能力
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修)
(3)授業の内容	健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る基礎技術を習得する。
(4)授業の到達目標	調理学の理論に基づいて、食品の性質と調理操作との関係を理解する。 安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作る基礎的な調理技術を身につける。 適切な食品の選択と組み合わせによる献立作成ができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 調理の意義と目的 および 計量方法や器具の使い方 第2回： 日本料理 （炊飯、だし、間接焼き、和える、卵の調理)(実習) 第3回： 日本料理 （変わり飯、煮る、寒天の調理)(実習) 第4回： 日本料理 （もち米、蒸す、でんぶんの調理)(実習) 第5回： 日本料理 （すし、小麦粉の調理)(実習) 第6回： 日本料理 （麺の扱い方、揚げ物)(実習) 第7回： 中国料理 （湯菜・拌菜・蒸菜)(実習) 第8回： 中国料理 （点心・揚菜)(実習) 第9回： 中国料理 （点心・炸菜)(実習) 第10回： 中国料理 （点心・炒菜)(実習) 第11回： 中国料理 （点心)(実習) 第12回： 西洋料理 （肉の調理、いもの調理、ゼラチンの調理)(実習) 第13回： 西洋料理 （ルー、揚げる、砂糖の調理)(実習) 第14回： 西洋料理 （魚の調理、オープン加熱)(実習) 第15回： 西洋料理 （パンの調理、果物の調理、嗜好飲料)(実習) 第16回： 定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急速、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(50%) 実習ノート(40%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、基礎的な調理技術の習得、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)
(9)成績評価基準	安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作るための基礎的な調理技術を習得できている。 調理学の理論に基づいて、適切な食品の選択、組み合わせによる献立作成および調理、演出(盛り付け)ができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング ■ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング ■ メール ■ その他(具体的に記述：ノート等は採点し、返却する) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

	5) その他(自由記述： に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある 教員(経歴及び実務経 験と授業内容との関 連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、調理技 術の基本について実習する。)
(12)テキスト・参考 図書	テキスト：西堀すぎ江編著『食育に役立つ調理学実習』 医歯薬出版 『日本食品成分表 八訂』 その他、プリントを配布する。 参考図書：谷洋子他 『わかりやすい調理』 みらい
(13)その他（受講上 の注意）	衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習する際には、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。実習に使用 する食材費用は別途集金する。欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。実習ノートの提出がない場合、単位を修得できない。実 習は手技等を身につけることも目的とするため、4回を超えて欠席をしない。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年 度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11)－ (12) ☐ (13)■ (14)－

科目名	応用調理学実習	担当教員	佐藤 真実、森 恵見
英語科目名	Applied Cookery Science Practicum	単位	1単位
開講形態	実習	配当年次	1年後期
選択区分	必修	ナンバリング	HN-E-2130
科目区分	人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力		
(2)資格・免許の要件	管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修)		
(3)授業の内容	健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る応用技術を習得する。		
(4)授業の到達目標	より高度かつ最新の調理器具の使い方や調理技術を身につける。 郷土料理、行事食、対象者別の供応食について自ら計画し、適応調理を実施できる。 フルコースのテーブルセッティングからサービスの方法について学ぶ。		
(5)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)		
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：Ⅱ 日本料理（季節の献立・秋）（実習） 森恵見 第2回：Ⅴ 諸外国の料理(インド・ロシア・ベトナム他）（実習） 佐藤真実 第3回：Ⅴ 諸外国の料理(スペイン・イタリア・韓国他）（実習） 佐藤真実 第4回：Ⅵ 年中行事と食卓の演出（実習、グループワーク、発表） 森恵見 第5回：Ⅵ 郷土料理（福井県）（実習） 佐藤真実 第6回：Ⅵ 郷土料理（全国各地）(実習、グループワーク、発表） 佐藤真実 第7回：Ⅳ 西洋料理（フルコース・食事作法）（講義・演習） 森恵見 第8回：Ⅳ 西洋料理（フルコース・食事作法）（実習） 佐藤真実・森恵見 第9回：Ⅶ 特別食（対象者別の調理）（実習、グループワーク、発表） 佐藤真実 第10回：Ⅷ 新しい調理法(エコ・クッキング）（実習） 佐藤真実 第11回：Ⅷ 新しい調理法（スビード調理・真空調理）（実習） 佐藤真実 第12回：Ⅵ 年中行事(クリスマス料理)（実習） 森恵見 第13回：Ⅵ 年中行事(正月料理）（実習） 森恵見 第14回：Ⅱ 日本料理（季節の献立・冬）（実習） 森恵見 第15回：包丁の使い方(実習)／実技試験 森恵見 第16回：定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。 自主献立のときは、グループのメンバーとともに料理の由来や調理法などを調べ、献立を作成すること。		
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。		
(8)成績評価方法	定期試験(40%) 実技試験(20%) 平常点(10%) 実習ノート(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、自主献立レポートの内容、提出状況等を総合して判断します。)		
(9)成績評価基準	高度かつ最新の調理器具や調理技術、テーブルセッティングやマナーなどの知識が修得できている。 郷土料理を味わい、由来や調理法などについて説明することができる。 行事食、供応食などについて自ら献立を作成し、適応調理を実施することができる。		
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ■ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ■ メール ■ その他(具体的に記述：ノートは採点し、返却します) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて		

	☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述： に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある 教員(経歴及び実務経 験と授業内容との関 連性)	経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、献立作成や環境設定を学ぶとともに高度な調理技術について実習する。)
(12)テキスト・参考 図書	テキスト：西堀すき江編著 『食育に役立つ調理学実習』 建帛社 『日本食品標準成分表 八訂』 その他、プリントを配布する。 参考図書：谷洋子他 『わかりやすい調理』 みらい
(13)その他（受講上 の注意）	衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。 実習費は別途に集金する。 授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する（ノートが未提出の場合、単位を修得できない）。 欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。実習は手技等の習得も目標とすることから4回を超えて欠席しない。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年 度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☒ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11)－ (12) ☐ (13) ☐ (14)－

科目名	文学の世界	担当教員	平岡 正実
英語科目名	The World of Literature	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	HL-1221
科目区分	人間生活学部学部共通科目 人間学関連科目		
教員免許法施行規則上の科目区分			
科目に含めることが必要な事項			
求める学習成果（教育目標）	豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	(空白)
(3)授業の内容	古今の郷土に関係する作家や文学作品、昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。
(4)授業の到達目標	古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：授業概要の説明及び受講の心構え 事前学習：今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。（2時間） 事後学習：「ビプリオバトル」のルールについて、図書やインターネット等で調べておくこと。（2時間） 第2回：郷土(武生・今立)の文学概論（発表・ディスカッション） 事前学習：郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと（2時間） 事後学習：越前市東部(味真野地区・今立地区)の文化遺産について調べ、ノートにまとめ第3回授業で提出すること(2時間) 第3回：郷土の文学①いわさきちひろと絵本（発表・ディスカッション） 事前学習：「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第4回授業で提出すること。(2時間) 第4回：郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館（発表・ディスカッション） 事前学習：「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第5回授業で提出すること。(2時間) 第5回：郷土の文学③橘曙覧と独楽吟（発表・グループワーク） 事前学習：「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。(2時間) 事後学習：「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめ第6回授業で提出すること。（2時間） 第6回：郷土の文学④「山川登美子・水上勉・高見順」（発表・ディスカッション） 事前学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者について調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者の作品を読み、特徴や文学史上の位置づけについてノートにまとめ第7回授業で提出すること。(2時間) 第7回：郷土の文学のまとめ「郷土の文学新聞」制作 事前学習：郷土の文学者のうち、興味のある文学者について資料を集め、「郷土の文学新聞」のレイアウトを作成しておくこと。（2時間） 事後学習：「郷土の文学新聞」を完成させ第8回授業で提出すること。（2時間） 第8回：神話・昔話の世界①小学校の教科書教材（発表・ディスカッション） 事前学習：日本の神話や昔話(古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等)について調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べてまとめ第9回授業で提出すること。（2時間） 第9回：神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む（発表・ディスカッション） 事前学習：西洋の昔話(グリム・アンデルセン・ペロー等)について調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べてまとめ第10回授業で提出すること。（2時間）

	第10回：韻文(詩・短歌・俳句)の世界（発表・ディスカッション） 事前学習：俳句(文学史、季語)について調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：興味のある俳人、歌人、詩人の人物像や作品について調べ、ノートにまとめ第11回授業で提出すること。(2時間) 第11回：童話の創作法(発表・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：芥川龍之介について調べ、ノートにまとめ第12回授業で提出すること。(2時間) 事後学習：芥川龍之介の作品（説話集）を一つ読み、400字程度にまとめて第12回授業で提出すること（2時間） 第12回：童話の創作①（発表・ディスカッション） 事前学習：日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめ第13回授業で提出すること。(2時間) 第13回：童話の創作②（発表・ディスカッション） 事前学習：童話コンクール入賞作品を分析し、魅力をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：図書館やインターネット等で日本の代表的な説話集にどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめ第14回授業で提出すること（2時間） 第14回：童話の創作③（発表・ディスカッション） 事前学習：説話集をリストアップし、比較分析すること。(2時間) 事後学習：授業の課題(日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す)を完成させ第15回授業で提出すること。(2時間) 第15回：創作童話の合評会（プレゼンテーション） 事前学習：自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめ提出すること。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	学期末レポート(50%)、授業内の課題(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)
(9)成績評価基準	講義で学修した作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元小学校教諭・中学校国語科教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(学校現場における教員経験を有する教員が、ふるさと教育の視点から福井県や越前市の文化や文学者について解説したり、青少年期における読書活動の意義・重要性について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。
(13)その他（受講上の注意）	毎回、テーマに関する本を1冊以上読んでおく
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	教職論	担当教員	鈴木 智子、草桶 勇人
英語科目名	Theory of Teacher Education	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年前期
選択区分	必修	ナンバリング	CE-A-2100
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教育の基礎的理解に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の基礎理論の理解		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	大学における学び方を含め、教師教育の観点から自己を位置づけ、専門職としての教師に向けての基礎を培うことを目的とする。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について、制度的、実態的側面から解説する講義を中心とする。
(4)授業の到達目標	(鈴木智子) 1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できる。 2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像についての考えを明確化する。 3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化する。 (草桶勇人) 1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解する。 2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考える。 3.小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：ガイダンス　各自の幼児教育観と幼児教育者像を確認する(グループワーク)(鈴木智子) 事前学習：授業前に各自の幼児教育観、幼児教育者像についての意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業のグループワークでの他の学生の意見、授業内容を踏まえて、各自の幼児教育観、幼児教育者像についてレポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：幼児教育者の専門性(鈴木智子) 事前学習：幼稚園教諭と小学校教諭の違いについて自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教諭の専門性について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：幼稚園教員の役割と職務(鈴木智子) 事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説序章第2節を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べ、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：幼稚園教諭免許取得と専門性の向上(鈴木智子) 事前学習：幼稚園教諭免許状について事前に調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、専門性の向上の方法について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：子育て支援と幼児教育センターとしての役割(鈴木智子) 事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第7節2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：子育て支援を行うために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：幼稚園教諭の協働性(鈴木智子) 事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第4節3を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：幼稚園教諭の協働性を高めるために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：まとめ　幼児教育者としての自覚と成長(鈴木智子) 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教諭の専門性、役割等についての質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：幼稚園教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：教師とは何か(小学校の教師を中心に)　①教師の専門性、②教職という仕事の特質、③教師のリーダーシップ(グループワーク)(草桶勇人) 事前学習：教職についてのメタファー(隠喩)を考えて、それをもとに自分の教育観についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：教師の専門性やその仕事の特質について、班ごとのディスカッションや講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：小学校における教師の役割　①授業をつくる、②授業から学ぶ、③子どもを育む(草桶勇人) 事前学習：アクティブ・ラーニングについて調べてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事前学習と算数科におけるアクティブ・ラーニングの事例体験をもとに、その意義等について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：教職の制度と教師の身分　①「全体の奉仕者」としての教師、②教師の職務と権限、③基本的な教育法規(草桶勇人) 事前学習：制度の上の教師について、まとめておくこと。(2時間)

	事後学習：教師の制度上の位置づけ等について、講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：子どもを理解するとは（１）(草桶勇人) 事前学習：これまで出会った教師の中で思い出に残っている教師についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教師の子ども理解について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第12回：子どもを理解するとは（２）(草桶勇人) 事前学習：子どもを理解するために何が必要であるかについてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義で扱った事例をもとに教師の子ども理解について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第13回：学び合うコミュニティとしての学校・チーム学校と開かれた学校づくり（草桶勇人） 事前学習：社会に開かれた教育課程について、学習指導要領解説を読んでまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義資料等をもとに開かれた学校づくりの意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第14回：主体的・対話的で深い学びと教師の資質・能力（グループワーク）(草桶勇人) 事前学習：小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義の資料等とグループでのディスカッションをもとに新しい時代に求められる小学校教師の資質・能力について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2時間) 第15回：教師の未来と教育とはなにかを改めて問い直すー「学び続ける教師像」と教育実践理論の構築（草桶勇人） 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校教諭の専門性、役割等についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：小学校教諭に求められる資質・能力と関連付けて講義で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急速、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	レポート(70%)、平常点(30%) 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(9)成績評価基準	(鈴木智子) 1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できるか。 2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像について考えを明確化できているか。 3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化できているか。 (草桶勇人) 1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解できているか。 2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考えることができているか。 3.小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができているか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述： に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト (1)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2019年 (2)小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 2018年 参考書 (1)岡本夏木著「幼児期—子どもは世界をどうつかむか—」岩波書店 2005年 (2)「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド本社 2017年 (3)幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (4)丹野清彦著「子どもの願い いじめVS12の哲学」高文研 2018年
(13)その他（受講上の注意）	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	算数	担当教員	草桶 勇人
英語科目名	Arithmetic	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2202
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項) 領域及び保育内容の指導法に関する科目(領域に関する専門的事項)		
科目に含めることが必要な事項	算数		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	小学校段階では、数学的活動を通して、知識及び技能として習得する具体的な内容は、日常生活に深く関わり、日常生活の場面を数理化して捉える内容が多い。そのため、算数・数学の学習過程のイメージを意識し、その問題解決の過程において、あらかじめ自己の考えをもって主体的に取り組めるようにし、よりよい解法に洗練させていくための意見の交流や議論など対話的な学びを適宜取り入れて、深い学びを実現する方向で講義を展開し、学生自身の数学的に考える資質・能力の育成と、数学的活動の楽しさを実感し、生涯にわたって学び続ける力の育成を目指す。
(4)授業の到達目標	子どもたちの数学的に考える資質・能力を育むためには、教師自身が数学的に考える資質・能力を有している必要がある。そのため、初等数学を高い立場(背景となる学問領域)から見直し、小学校算数科の授業を行うために必要な知識や考え方を修得することを目的とする。 1．日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 2．数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度や講義で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：ガイダンス 算数・数学教育の目的 算数科の目標 算数科の領域 事前学習：テキスト『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』第2章第1節「算数科の目標」を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに算数科の3つの目標、数学的な見方・考え方、数学的活動について、レポートにまとめる。(2時間) 第2回：数とその表現 事前学習：テキスト『解説 算数編』の整数の表し方に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに子どもたちに数を指導するうえで重要なことについて、レポートにまとめる。(2時間) 第3回：整数の加法・減法 事前学習：テキスト『入門算数学』の第2章第2・3節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに加法と減法のそれぞれの意味について、レポートにまとめる。(2時間) 第4回：整数の乗法・除法 事前学習：テキスト『入門算数学』の第2章第4・5節、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに乗法と除法のそれぞれの意味について、レポートにまとめる。(2時間) 第5回：小数・分数の加法・減法 事前学習：テキスト『解説 算数編』の小数・分数の加法・減法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに小数・分数の加法・減法の計算の仕方について、レポートにまとめる。(2時間) 第6回：小数の乗法・除法 事前学習：テキスト『解説 算数編』の小数の乗法・除法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに小数の乗法・除法の計算の仕方について、レポートにまとめる。(2時間) 第7回：分数の乗法・除法 事前学習：テキスト『解説 算数編』の分数の乗法・除法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに分数の乗法・除法の計算の仕方について、レポートにまとめる。(2時間) 第8回：式の表現と読み、計算の活用、概数 事前学習：テキスト『解説 算数編』の概数と四捨五入、数量の関係を表す式、四則に関して成り立つ性質に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)

	事後学習：講義をもとに概数や四則計算について、レポートにまとめる。(2時間) 第9回：図形の計量 事前学習：テキスト『入門算数学』の第5章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに円や多角形の面積の求め方について、レポートにまとめる。(2時間) 第10回：図形概念と操作 図形の性質と数学的推論 事前学習：小学校で学習する基本図形の定義と性質についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに三角形の内角の和や多角形の外角の和について、レポートにまとめる。(2時間) 第11回：測定 変化と関係 事前学習：テキスト『解説 算数編』の第3学年C測定、第4学年C変化と関係を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに小中学校における関数の違いについて、レポートにまとめる。(2時間) 第12回：関数 比例 反比例 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第3・4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに小中学校における比例と反比例のそれぞれの違いについて、レポートにまとめる。(2時間) 第13回：データの活用の基本 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第6・7節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに身近にあるデータの活用や分析について、レポートにまとめる。(2時間) 第14回：数学的な考え方 数学的リテラシー 事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第3・4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに数学的な考え方について、レポートにまとめる。(2時間) 第15回：授業づくりと評価 まとめ 事前学習：これまで授業を受けてきた算数・数学の授業の中で、印象に残っている内容とその理由をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに問題解決の過程と学習の評価について、レポートにまとめる。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急速、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	毎回のレポート(2%×15回)、講義内容を活用した課題(10%×2回)、講義終了後の最終試験(50%)で総合的に評価する。
(9)成績評価基準	・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察することができたか。また、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりすることができたか。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたか。また、講義で学んだことを生活や学習に活用しようとしたか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト： (1)自作のワークシート (2)文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』日本文教出版、2018年 (3)黒木哲徳『入門算数学〔第3版〕』日本評論社、2022年 参考書・参考資料等： (1)青山庸『初任者のための算数の深読み 授業で確かな学力を培うために』東京書籍、2015年 (2)算数科授業研究会『算数科教育の基礎・基本』明治図書、2023年
(13)その他(受講上の注意)	ワークシートの保存用のファイルを準備すること。
(14)オフィスパワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年
度からの変更箇所

(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	算数科教育法	担当教員	草桶 勇人
英語科目名	Teaching Method s of Arithmetic	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2254
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法)		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
(4)授業の到達目標	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：算数・数学教育の現状と課題(討議) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第1・3・4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義と討議を通して確認したわが国の算数・数学教育の現状と課題について、レポートにまとめる。(2時間) 第2回：算数科の目標について一資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び 事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第2節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに資質・能力とアクティブ・ラーニングについて、レポートにまとめる。(2時間) 第3回：入門期の算数と子供の認知発達(討議と実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議と実技を通して確認した入門期の算数について、レポートにまとめる。(2時間) 第4回：子供たちのつまずき(1)(討議と実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第1・2節及び第8節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、レポートにまとめる。(2時間) 第5回：子供たちのつまずき(2)(討議と実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第8節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、レポートにまとめる。(2時間) 第6回：図形 ICTの利用と平面図形の性質(面積や角の大きさ含む)(実技) 事前学習：デジタル教科書の活用実践事例を調べ、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：デジタル教科書等の利用を通して考えたその利点と課題について、レポートにまとめる。(2時間) 第7回：変化と関係(1)速さなどの内包量と比例(実験) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第3節第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：単位当たり量の実験を通して考えた内包量(混み具合等)について、レポートにまとめる。(2時間) 第8回：変化と関係(2)及びデータの活用 割合とデータの分類整理・棒グラフの活用(実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第5節第6節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：グラフ作成等の実技をもとにデータの活用の意義等について、レポートにまとめる。(2時間) 第9回：模擬授業の実施(1)と学習評価(討議と実技) 事前学習：数と計算領域における指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関する留意点(学習評価を含む)を整理し、レポートにまとめる。(2時間) 第10回：模擬授業の実施(2)と学習指導の創意・工夫(板書やノート指導など)(実技と発表) 事前学習：数と計算領域における指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、レポートにまとめる。(2時間)

	第11回：模擬授業の実施(3)と学習評価(討議と実技) 事前学習：図形に関する指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関する留意点(学習評価を含む)を整理し、レポートにまとめる。(2時間) 第12回：模擬授業の実施(4)と学習指導の創意・工夫(板書やノート指導など)(実技と発表) 事前学習：図形に関する指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、レポートにまとめる。(2時間) 第13回：模擬授業の実施(5)と学習指導の創意・工夫(板書やノート指導など)(実技と発表) 事前学習：変化と関係または割合等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関する省察(主にオープンな課題)の発表を、レポートにまとめる。(2時間) 第14回：模擬授業の実施(6)とオープンな課題(実技) 事前学習：変化と関係または割合等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関する省察(主にオープンな課題)の発表を、レポートにまとめる。(2時間) 第15回：模擬授業の実施(7)とオープンな課題(実技) 事前学習：データの活用等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関する省察(主にオープンな課題)の発表を、レポートにまとめる。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急速、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	毎回のレポート(3%×15回)、模擬授業の指導案(15%)、模擬授業の実施状況(10%)、模擬授業のリフレクションレポート(15%)、講義終了後の最終レポート(15%)で総合的に評価する。
(9)成績評価基準	・算数科における教育目標、育成すべき資質・能力を理解できたか。 ・学習指導要領に示された各領域の内容を背景となる学問領域と関連させて理解できたか。 ・様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト： (1) 黒木哲徳『入門算数学〔第3版〕』日本評論社、2022年 (2) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』日本文教出版、2018年 参考書・参考資料等： (1) 小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育 コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年
(13)その他(受講上の注意)	小学校学習指導要領(平成29年3月)の総則と第2章第3節「算数」及び同解説の「算数」は、講義に関連する項目の事前・事後に必ず読むこと。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	教育課程論Ⅱ（新加：教育課程論）	担当教員	草桶 勇人
英語科目名	Theory of Education Curriculum Ⅱ	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	必修	ナンバリング	CE-B-2251
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教育の基礎的理解に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
(4)授業の到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：教育課程(カリキュラム)とは何か 事前学習：『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：教育課程の編成と学習指導要領 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：アクティブ・ラーニングと資質・能力ーコンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方ー事例を通して（1）(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方ー事例を通して（2）(グループワークと討議) 事前学習：これまで自分が受けてきた授業で印象的であった内容をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第6回：社会に開かれた教育課程と学びの地図ーカリキュラム・マネジメントの意義 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：：講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回：教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について 事前学習：『解説 総則編』第3章第2節・第3節2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼小接続について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第8回：特色ある学校の教育課程(1)ー事例①(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第9回：特色ある学校の教育課程(2)ー事例②(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第5節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめ

	る。(2時間) 第10回：総合的な学習の時間と教育課程 事前学習：『新しい時代の教育課程 第5版』第5章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに総合的な学習の時間と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第11回：総合的な学習の時間とその実際―事例(グループワークと発表) 事前学習：これまでに受けてきた総合的な学習の時間で印象的であった内容をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに総合的な学習の時間の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第12回：教育課程と特別活動 事前学習：『解説 特別活動編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第13回：特別活動の内容とその実際―事例(グループワークと発表) 事前学習：『解説 特別活動編』第3章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに特別活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第14回：生徒指導と教育課程 事前学習：『生徒指導提要』第2章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに生徒指導と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第15回：教育課程のまとめと今後の課題 事前学習：これまでの講義の概要を概観し、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：教育課程について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	毎回のA4裏表1枚のリフレクション・レポート(3%×10回)、ワークショップレポート(10%×5回)、講義内容に関連するレポート(10%×2回)で総合的に評価する。
(9)成績評価基準	教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。 教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。 学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。 特別活動の目標とその内容を理解できたか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社、2018年 田中耕治 他『新しい時代の教育課程 第5版』有斐閣アルマ、2019年 参考書・参考資料等：文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』東洋館出版社、2018年 丹野清彦著『子どもの願い いじめVS12の哲学』高文研、2018年 文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版、2023年
(13)その他(受講上の注意)	学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－
-------------------	---

科目名	教職実践演習（幼・小）	担当教員	高野 秀晴、草桶 勇人、鈴木 智子
英語科目名	Seminar on the Teaching Profession (Preschool & Elementary)	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	4年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-G-2455
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教育実践に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	教職実践演習		
求める学習成果（教育目標）	探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 体系的な知識・技能 ☐ 論理的思考力と創造力 ☒ 人間関係形成・社会形成能力 ☒ 職業観と職業的倫理観 ☒ 自己理解・自己管理能力 ☒ 諸課題の理解と課題対応能力 ☒ 統合的な学習経験 ☒ キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレーイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れ、学びの集大成とする。 なお、本授業は、教科に関する科目及び教職に関する科目担当者3人がオムニバス形式で行うこととし、教師の意義と使命・幼稚園教諭・小学校教諭の各視点から、自己にとつての課題を考えさせ、その課題解決を通して、実践的指導力（ICT活用指導力を含む）を育てることを目指す。 また、必要に応じ個別に補完的な指導を行うこととするが、この場合、補完する領域・内容等によっては、授業担当者以外の教科に関する科目の科目担当教員又は教職に関する科目の科目担当教員の参画を得て指導を行う。
(4)授業の到達目標	教職の意義や使命、役割について説明することができる。 教員に求められる資質能力について説明することができる。 教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化することができる。 幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。 小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。
(5)アクティブ・ラーニング	☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(模擬授業)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	高野秀晴担当分(5回) 第 1 回 教員の意義と使命、役割について(事例研究) 事前学習：実習時の記録を読み直し、検討を要するエピソードをピックアップする。(2時間) 事後学習：授業時に検討した事例をもとに、教員の意義と使命、役割についてレポートにまとめる。(2時間) 第 2 回 地域・家庭と連携するための方策を考える(グループ討論) 事前学習：実習時の記録を読み直し、実習時に地域・家庭とどのような関わりがあったかを整理する。(2時間) 事後学習：地域・家庭との連携・協働を深めるにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。(2時間) 第 3 回 教員に求められる資質能力を明確化する(グループ討論) 事前学習：履修カルテを読み、これまでに身に付けられた資質能力を自分なりにカテゴライズする。(2時間) 事後学習：これまでに身に付けた資質能力を教職に活かすための方途をレポートにまとめる。(2時間) 第 4 回 教員に求められる社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいか(ロールプレーイング) 事前学習：社会性や対人関係能力に関する図書を調べる。(2時間) 事後学習：社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。(2時間) 第 5 回 今後の課題を明確化する(グループ討論とレポート) 事前学習：履修カルテを読み、今後身に付けるべき資質能力をピックアップする。(2時間) 事後学習：履修カルテ、および、これまでにまとめたレポートを基にして、自身の今後の課題についてレポートにまとめる。(2時間) 鈴木智子担当分(5回) 第 6 回 幼児教育者に求められる資質能力を明確化する(グループ討論) 事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、幼稚園教諭に求められる資質能力について、自分の意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、幼稚園教諭としての自分の課題をレポートにまとめる。(2時間) 第 7 回 実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える(ロールプレーイングとグループ討論) 事前学習：これまでの実習体験における「気になる子」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめておく。(2時間)

	事後学習：「気になる子」への指導を通して、幼児理解、クラス運営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。(2時間) 第 8 回 自らの課題を洗い出し、幼児理解を深める方策を考える(事例研究とグループ討論) 事前学習：ドキュメンテーション、ポートフォリオなどの保育記録の方法について、事前に調べ、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内での事例の記録を通して、幼児の様子を考察する方法を利用して、実習記録を読み直し、自身の幼児理解を再度考察する。(2時間) 第 9 回 自らの課題を洗い出し、実践的指導力（ICT活用指導力を含む）を培う方策を考える(模擬授業とグループ討論) 事前学習：実習体験を踏まえて、自分が課題とするテーマの遊びを調べて、模擬授業として発表できる準備をしておく。(2時間) 事後学習：授業での他の学生の模擬授業を踏まえて、多様な遊びを調べ、そのねらいについて、レポートにまとめる。(2時間) 第10回 これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する(グループ討論とレポート) 事前学習：幼稚園教育要領を読み、求められる幼児教育について考え、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教育要領が求める幼児教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。(2時間) 草桶勇人担当分(5回) 第11回 教育者（主に小学校）に求められる資質・能力を明確化する(グループ討論) 事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、小学校教諭としての自分の課題をリフレクションレポートにまとめる。(2時間) 第12回 実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える(ロールプレイングとグループ討論)（1） 事前学習：これまでの実習体験における「気になる児童」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめておく。(2時間) 事後学習：「気になる児童」への指導を通して、子ども理解、学級経営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。(2時間) 第13回 実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える(ロールプレイングとグループ討論)（2） 事前学習：これまでの実習体験における授業実践や授業観察を振り返り、自身の教育実践についての課題についてまとめておく。(2時間) 事後学習：授業実践とその省察を通して、よりよい授業のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。(2時間) 第14回 自らの課題を洗い出し、課題解決のための実践的指導力（ICT活用指導力を含む）の習得にあたる。 事前学習：各グループの課題について、自分なりの解決案について考えをまとめておく。(2時間) 事後学習：新しいグループごとの話し合いと協働作業を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。(2時間) 第15回 これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する(グループ討論とレポート) 事前学習：小学校学習指導要領を読み、今後求められる教育について考え、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校学習指導要領が求める教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。(2時間) 本授業は、これまでの学びの集大成であるため、これまでの学習内容を振り返り、整理する作業が必要となる。また、この作業を通じて見出された今後の課題に応じて、各自に補完的な学習が求められる。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	レポート(25%) 事例研究の内容(25%) グループ討論やロールプレイングの参加状況(25%) 模擬授業の内容(25%)
(9)成績評価基準	教職の意義や使命、役割について説明することができるか。 教員に求められる資質能力について説明することができるか。 教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化できているか。 幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。 小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

	5) その他(自由記述：に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	参考図書は授業時に紹介する。
(13)その他（受講上の注意）	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☒ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11) ☒ (12) ☐ (13) ☐ (14)－

科目名	理科	担当教員	西出 和彦
英語科目名	Science	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2253
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項)		
科目に含めることが必要な事項	理科		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	小学校理科で扱う内容を理解し、次の6項目の目標を達成するためにどのような授業を行ったら良いかを考える。①自然に親しむこと。②見通しをもって観察、実験などを行うこと。③問題解決の能力を育てること。④自然を愛する心情を育てること。⑤自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること。⑥科学的な見方や考え方を養うこと。
(4)授業の到達目標	小学校理科の目標，教育内容をよく理解し、授業の目的、目標に応じて、適切な授業を遂行するための基礎的な力を身に付ける。理科の観察実験に関する基礎的知識や技能を身に付ける。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力 事前学習：学習指導要領を読む(2時間)。 事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける(2時間)。 第2回：理科の見方・考え方 事前学習：理科の見方・考え方について調べてまとめる(2時間)。 事後学習：理科の見方・考え方とは何かについてレポートをまとめる(2時間)。 第3回：理科の授業におけるICTの活用方法や各種教材教具の使い方 事前学習：理科の授業に有効な方法を考える(2時間)。 事後学習：どのような場面で、何を使用すれば、より効果的なかを整理する(2時間)。 第4回：3年生理科のポイント(比較しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：3年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第5回：3年生理科(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して、「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：3年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第6回：4年生理科のポイント(働きや時間などと関係付けながらしらべる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：4年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第7回：4年生理科①(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：4年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第8回：4年生理科②(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：4年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第9回：5年生理科のポイント(変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：5年生理科の学習内容を把握する(2時間)。

	事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第10回：5年生理科①(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して，「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：5年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第11回：5年生理科②(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して，「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：5年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第12回：6年生理科のポイント(要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：6年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第13回：6年生理科①(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して，「要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：6年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第14回：6年生理科②(授業準備，後始末，振り返り，授業評価)を通して，「要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：6年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第15回：指導と評価の一体化：評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解 事前学習：評価の観点と評価方法を確認する(2時間)。 事後学習：それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る(2時間)。 定期試験は実施しない。 小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	レポート(50%)，提出物(40%)，授業の取り組み(10%)
(9)成績評価基準	(1)小学校理科の授業内容を理解している。 (2)学習内容の目標に応じて、適切な指導方法を指摘することができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて) □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元小学校講師、元中学校・高校教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、小学校理科に関する学習内容、観察実験に関する基礎的知識や技能、授業や評価等について実践的に講義する。)
(12)テキスト・参考図書	(1) 小学校理科教科書 (2) 文部科学省著「小学校学習指導要領解説 理科編」東洋館出版社 平成29年7月 (3) 教師用指導書
(13)その他(受講上の注意)	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)■ (12)□ (13)□ (14)－
-------------------	--

科目名	理科教育法	担当教員	西出 和彦
英語科目名	Teaching Method s of Science	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2255
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法)		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
(4)授業の到達目標	学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力 事前学習：学習指導要領を読む(2時間)。 事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける(2時間)。 第2回：学習指導案の書き方、評価の方法(ループリックの作成) 事前学習：学習指導案の書き方やループリックによる評価について予習する(2時間)。 事後学習：学習指導案の書き方のポイントや評価規準、評価基準などについて整理する(2時間)。 第3回：指導技術：ICTの活用、板書の方法、各種教材教具の使い方 事前学習：ICTの活用などの有効な指導について調べる(2時間)。 事後学習：具体的な指導例を調べる(2時間)。 第4回：3年生理科のポイント(比較しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：3年生理科の概要を調べる(2時間)。 事後学習：3年生理科で用いる実験器具について復習する(2時間)。 第5回：模擬授業3年生理科(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第6回：4年生理科のポイント(働きや時間などと関係付けながらしらべる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：4年生理科の概要を調べる(2時間)。 事後学習：4年生理科で用いる実験器具について復習する(2時間)。 第7回：模擬授業4年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第8回：模擬授業4年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第9回：5年生理科のポイント(変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：5年生理科の概要を調べる(2時間)。

	事後学習：５年生理科で用いる実験器具について復習する(2時間)。 第10回：模擬授業5年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第11回：模擬授業5年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第12回：6年生理科のポイント(要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：6年生理科の概要を調べる(2時間)。 事後学習：6年生理科で用いる実験器具について復習する(2時間)。 第13回：模擬授業6年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第14回：模擬授業6年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2時間)。 第15回：指導と評価の一体化：評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解 事前学習：評価の観点と評価方法を確認する(2時間)。 事後学習：それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る(2時間)。 小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	レポート(50%), 提出物(40%), 平常点(10%)
(9)成績評価基準	(1)小学校理科の授業内容を理解している。 (2)学習内容の目標に応じて、適切な学習指導ができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元小学校講師、元中学校・高校教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、小学校理科に関する学習内容、観察実験に関する基礎的知識や技能、授業や評価等について実践的に講義する。)
(12)テキスト・参考図書	(1) 小学校理科教科書 (2) 文部科学省著「小学校学習指導要領解説 理科編」東洋館出版社 平成29年7月 (3) 教師用指導書
(13)その他(受講上の注意)	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－
-------------------	--

科目名	子どもと環境	担当教員	西出 和彦
英語科目名	Child and Enviroment	単位	1単位
開講形態	演習	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2204
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 体系的な知識・技能 ☐ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ☐ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ☒ 諸課題の理解と課題対応能力 ☒ 総合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	幼稚園教諭一種免許状(必修)， 保育士資格(必修)
(3)授業の内容	子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわかり，自分の生活に取り入れる力を養うために必要な知識の習得を目指す。その上で、自然環境を活かした保育の方法や，環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。
(4)授業の到達目標	領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また，乳幼児の発達や学びの過程を理解し，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
(5)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：領域「環境」のねらい及び内容 事前学習：領域「環境」のねらいを読んでおく(2時間)。 事後学習：ねらいをレポートとしてまとめる(2時間)。 第2回：生きものとの関わりの中で好奇心を育てる活動 事前学習：生きものとの関わりの中で好奇心を育てる実践事例について調べる(2時間)。 事後学習：生きものとの関わりの中で好奇心を育てることの重要性についてレポートとしてまとめる(2時間)。 第3回：自然との関わり方や生命を尊重する態度 事前学習：自然との関わり方や生命を尊重する態度に関する実践事例について調べる（2時間）。 事後学習：実践事例に基づいて，自然との関わり方や生命を尊重する態度についてレポートとしてまとめる（2時間）。 第4回：自然体験Ⅰ（身の回りの環境に好奇心・探究心をもつとは？） 事前学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法を調べる(2時間)。 事後学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法についてレポートとしてまとめる(2時間)。 第5回：自然体験Ⅱ（乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れるとは？） 事前学習：自然体験に関する実践事例を調べる(2時間)。 事後学習：自分の体験や実践事例に基づいて，乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れることの重要性についてレポートとしてまとめる(2時間)。 第6回：身近な素材を活用した遊びをテーマにした模擬保育 事前学習：身近な素材を活用した遊びについて調べる(2時間)。 事後学習：身近な素材を活用した遊びについてレポートとしてまとめる(2時間)。 第7回：身近な素材を取り入れた遊びから探究心を育てる活動 事前学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについて調べる(2時間)。 事後学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについてレポートとしてまとめる(2時間)。 第8回：ものの性質や仕組みに気づき仲間と共有する活動 事前学習：ものや道具に関わる遊びについて調べる(2時間)。 事後学習：ものや道具に関わって遊ぶことについてレポートとしてまとめる(2時間)。 書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	レポート(50%)，課題等の提出物(30%)，授業の取り組み(20%)

(9)成績評価基準	(1)保育内容としての「環境」を理解し、そのねらいを達成することができる。 (2)様々な活動を通して、自然に親しみ、生き物と触れあうことができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元小学校講師・元中学校・高校教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト 田尻 由美子・無藤 隆 編者「保育内容 子どもと環境 –基本と実践事例– 第三版」同文書院，2023年 参考図書 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(13)その他（受講上の注意）	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)– (12)□ (13)□ (14)–

科目名	保育内容指導法（環境）	担当教員	西出 和彦
英語科目名	Teaching method of Early Childhood Care and Education (Enviroment)	単位	1単位
開講形態	演習	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2207
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 体系的な知識・技能 ☐ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ☐ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ☒ 諸課題の理解と課題対応能力 ☒ 総合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	幼稚園教諭一種免許状(必修)， 保育士資格(必修)
(3)授業の内容	領域「環境」の意義を捉えることと、その指導法の習得を目的とする。幼児の心身の成長に自然環境や社会環境、物的環境や人的環境が重要な役割を果たしていることを理解する。その上で、自然環境を活かした保育の方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。
(4)授業の到達目標	幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
(5)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらいと内容，指導案作成 事前学習：幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいを読んでおく(2時間)。 事後学習：ねらいをレポートとしてまとめる(2時間)。 第2回：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動（情報機器の活用） 事前学習：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる(2時間)。 事後学習：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる(2時間)。 第3回：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動（情報機器の活用） 事前学習：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる(2時間)。 事後学習：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる(2時間)。 第4回：身近な素材を活用した遊びをテーマにした模擬保育，領域「環境」の評価の考え方（発表・プレゼンテーション） 事前学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについて調べる(2時間)。 事後学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについてレポートとしてまとめる(2時間)。 第5回：自然体験Ⅰ（身の回りの環境に好奇心・探究心をもって活動する）（フィールドワーク） 事前学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法を調べる(2時間)。 事後学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法についてレポートとしてまとめる(2時間)。 第6回：自然体験Ⅱ（乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れることの重要性）（フィールドワーク） 事前学習：自然体験に関する実践事例を調べる(2時間)。 事後学習：自分の体験や実践事例に基づいて，乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れることの重要性についてレポートとしてまとめる(2時間)。 第7回：身近な素材を取り入れた遊びから探究心を育てる活動（発表・プレゼンテーション） 事前学習：身近な素材を活用した遊びについて調べる(2時間)。 事後学習：身近な素材を活用した遊びについてレポートとしてまとめる(2時間)。 第8回：ものの性質や仕組みに気づき仲間と共有する活動を取り入れた模擬保育（発表・プレゼンテーション） 事前学習：ものや道具に関わる遊びについて調べる(2時間)。 事後学習：ものや道具に関わって遊ぶことについてレポートとしてまとめる(2時間)。 書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(8)成績評価方法	レポート(50%)，課題等の提出物(30%)，授業の取り組み(20%)
(9)成績評価基準	(1)保育内容としての「環境」を理解し、そのねらいを達成することができる。 (2)様々な活動を通して、自然に親しみ、生き物と触れあうことができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3)小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元小学校講師・元中学校・高校教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト 田尻 由美子・無藤 隆 編者「保育内容 子どもと環境 ―基本と実践事例― 第三版」同文書院，2023年 参考図書 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(13)その他（受講上の注意）	
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11)－ (12) ☐ (13) ☐ (14)－

科目名	乳児保育Ⅰ	担当教員	森尾 恵里
英語科目名	Infant Care and EducationⅠ	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2209
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	(空白)		
科目に含めることが必要な事項	(空白)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	保育士資格(必修)
(3)授業の内容	我が国における乳児保育の変遷をたどりながら、今日の保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育や子育て支援事業などの現状と課題及び3歳未満児の発育・発達を踏まえた3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。さらに、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。
(4)授業の到達目標	1.乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2.保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3.3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：乳児保育の意義・目的、歴史的変遷(授業概要の説明) 事前学習：テキスト「第1講」を通して、乳児保育の定義やその意義、歴史的経緯について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳児保育の意義と目的を通して、歴史、政策について復習しておくこと。(2時間) 第2回：乳児保育の役割と機能 事前学習：保育所保育指針第1章・第4章を読み子育て支援について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳児保育の役割と機能について、保育所保育指針第1章と照らし合わせて復習しておくこと。(2時間) 第3回：乳児保育における養護と教育 事前学習：保育所保育指針「総則 養護に関する基本的事項」「第2章 保育の内容」を通して、養護と教育について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：養護と教育の意味と重要性について復習しておくこと。(2時間) 第4回：乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況と課題 事前学習：テキスト「第2講」を通して、母子を保障する法律、子育て支援のあり方や課題について学習しておく。(2時間) 事後学習：母子を保障する法律、家庭での生活や遊び、家庭との連携について復習しておくこと。(2時間) 第5回：保育所における乳児保育 事前学習：テキスト「第3講」を通して、保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：保育所の役割、保育所における乳児保育の現状と課題について学習しておくこと。(2時間) 第6回：保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 事前学習：テキスト「第4講」を通して、児童福祉施設等について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳児院の役割と支援方法、現状と課題について復習しておくこと。(2時間) 第7回：家庭的保育等における乳児保育 事前学習：テキスト「第5講」を通して、地域型保育の概要と乳児保育の実際について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：家庭的保育・小規模保育の歴史的経緯、保育の特徴、現状と課題について復習しておくこと。(2時間) 第8回：3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場

	事前学習：テキスト「第6講」を通して、子育て支援の目的や方法について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：子育て支援の場、実践内容、求められる子育て支援について復習しておくこと。(2時間) 第9回：3歳未満児の心身諸機能の発達 事前学習：テキスト「第11講」を通して、特に発達に応じた安全・安心の保育について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：心身諸機能の発達を通して3歳未満児の発達の特性と乳児保育の基本的な援助や関わりの考え方について復習しておくこと。(2時間) 第10回：3歳未満児の生活と環境 事前学習：テキスト「第7講」を通して、乳児保育における生活の場としての環境について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：0, 1, 2歳児の育ちと環境を通した保育について復習しておくこと。(2時間) 第11回：3歳未満児の遊びと環境 事前学習：テキスト「第8講」を通して、0, 1, 2歳児の発達と環境構成の関連について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：0, 1, 2歳児の遊びと遊びを充実させる環境構成について復習しておくこと。(2時間) 第12回：3歳児以上の保育に移行する時期の保育 事前学習：テキスト「第9講」を通して、子どもたちの発達の連続性について指針をふまえた移行について学習しておくこと。保育所保育指針の「ねらい」「内容」及び「内容の取り扱い」について熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：2歳児の保育から3歳児以上の保育とのつながりについての重要ポイントを復習しておくこと。(2時間) 第13回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等における援助の関わり 事前学習：テキスト「第10講」を通して、保育所保育指針の乳児保育に関する記載についても学習しておくこと。(2時間) 事後学習：3歳未満児の発達にあわせた援助と関わり方について復習しておくこと。(2時間) 第14回：乳児保育にける計画・記録・評価とその意義 事前学習：テキスト「第12講」を通して、保育計画の概要、指導計画から実践、記録、評価について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：指導計画から実施、記録とのつながりや必要性について復習しておくこと。(2時間) 第15回：乳児保育における連携・協働 事前学習：テキスト「第13・14・15講」を通して、職員間、保護者、関係機関との連携の意義や実際について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：求められる専門性、保護者との連携、地域関係機関との連携・協働の意義や実際について復習しておくこと。(2時間) 第16回：定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(60%) 復習レポート(30%) 平常点(10%) ・平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。
(9)成績評価基準	1.乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解することができるか。 2.保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解することができるか。 3.3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解することができるか。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解することができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元保育士) 実務経験と授業内容との関連性：(保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、3歳未満児の保育内容と運営体制について、実践的に分析、考察、検討する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト・・・寺田清美・大方美香・塩谷香編 「新基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版 2019年 参考図書・・・厚生労働省編 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018年 内閣府編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
(13)その他（受講上の注意）	・授業内容のスライドは、資料として配布する。各自ファイルに綴じて事後学習に活用すること。 ・6回程度、授業の最後に振り返り復習レポートを提出する。提出された復習レポートから、重要ポイントや質問等に対して授業中または一人ひとりにコメントし、フィードバックする。 ・参考図書「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－
-------------------	--

科目名	乳児保育Ⅱ	担当教員	森尾 恵里
英語科目名	Infant Care and Education Ⅱ	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2257
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	(空白)		
科目に含めることが必要な事項	(空白)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	保育士資格(必修)
(3)授業の内容	本授業では、3歳未満児の発育・発達過程や特性及び養護と教育の一体性を踏まえた保育計画・保育内容・方法・環境構成・援助・観察・記録・評価について具体的に理解し、乳児保育に必要な専門的技術を身につけることを目的とする。そのために、発育・発達を捉えその時期にふさわしい豊かな体験、主体性を尊重する生活や遊びを支える環境の構成等について学習する。
(4)授業の到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他(具体的に記述： 手作りおもちゃ作製)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：オリエンテーション（授業の概要説明） 子どもと保育士等との関係の重要性 事前学習：3歳未満児に読み聞かせたい絵本を1冊選んで、選んだ理由をレポートにまとめ持参すること。(2時間) 事後学習：子どもと保育者等との信頼関係について復習しておくこと。(2時間) 第2回：個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 事前学習：テキストP203, 304, 305を読んで疑問点をレポートにまとめ持参すること。(2時間) 事後学習：個別の支援方法や関わり方、0歳児の生活の流れ、乳児にふさわしい生活について復習しておくこと。(2時間) 第3回：子どもの主体性の尊重と自己の育ち 事前学習：保育所保育指針「第2章乳児保育に関わるねらい及び内容」・テキスト「第2・3・4講」を通して、0歳児のデイリープログラム作成の仕方やポイントについて学習しておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの主体性や自己の育ちについて復習しておくこと。(2時間) 第4回：子どもの体験と学びの芽生え 実技（調乳・おもつ交換等実技） 事前学習：テキストP362～365を熟読し、体験学習に関することを学習しておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの学び、実技のそれぞれのポイントを見直し生活の援助について復習しておくこと。(2時間) 第5回：子どもの1日の生活の流れと保育の環境 事前学習：保育所保育指針「第2章 1歳以上3歳未満児に関わるねらい及び内容」・テキスト「第5, 6, 7講」を通して、1歳児のデイリープログラムの作成の仕方やポイントについて学習しておくこと。(2時間) 事後学習：1歳児の生活の流れと必要な環境について復習しておくこと。(2時間) 第6回：子どもの生活や遊びを支える環境の構成 事前学習：3歳未満児の遊びの特性を踏まえ、発達や興味に即した遊具を製作する為に、テキストP366～370を熟読・保育図書などから作るおもちゃを決め、必要な材料・用具を全て自分で用意して授業に臨むこと。 （例・小型玩具、手で持てる、一人で遊べる、繰り返し遊べる、安全性等を考慮する等）(2時間) 事後学習：授業時間内に仕上がらない場合は次週までに完成しプレゼンテーションに備えておくこと。(2時間) 第7回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際（手作りおもちゃプレゼンテーション） 事前学習：テキストP370を参考にし、レポートを作成しておくこと。(2時間) 事後学習：発達過程や季節に合わせて環境構成を変化させていく大切さについて復習しておくこと。(2時間) 第8回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 事前学習：テキスト「第8・9・10講」を読み、2歳児の指導計画の作成の仕方ポイントについて学習しておくこと。(2時間) 事後学習：2歳児の生活の流れと必要な環境について復習しておくこと。(2時間) 第9回： 子ども同士の関わりとその援助の実例（わらべうた・手遊び）

	事前学習：1歳～2歳児が夢中になれる遊びと保育の配慮と工夫について、学習しておくこと。(2時間) 事後学習：わらべうた・手遊び等、発達や発育を意識した様々なあそびについて復習しておくこと。(2時間) 第10回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 事前学習：テキスト「第11項」・保育所保育指針「第2章 保育の内容」を通して、健康や安全、情緒の安定について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳幼児の健康状態や発育、衛生管理、安全管理について復習しておくこと。(2時間) 第11回：集団での生活における配慮 グループワーク・発表 事前学習：テキストP292,293,294,295を読んで、安全について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：集団生活での具体的な配慮について復習しておくこと。(2時間) 第12回：環境の変化や移行に対する配慮 事前学習：テキスト「第13講」を読み、保護者との連携の重要性について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：3歳以上児の保育のつながりについて復習しておくこと。(2時間) 第13回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 事前学習：テキスト第14講のstep1を読んで疑問点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：提示する動画で書いた記録の振り返りを書いて次週提出すること。(2時間) 第14回：個別的な指導計画と集団の指導計画 事前学習：3歳未満児保育の計画について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：個別計画、月案、週案について、復習しておくこと。(2時間) 第15回：保育実践グループワーク（保育士等に求められる専門性） 事前学習：これまでの授業内容を復習し重要点、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：保育者として求められる人間性や専門的知識・技術及び社会人としての心得等について復習しておくこと。(2時間) 第16回：定期試験
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急速、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	定期試験(40%) 課題(40%) 平常点(20%) ・課題は復習レポート、手作りおもちゃ製作等の全ての提出物を総合して判断します。 ・平常点は授業への参加状況、受講態度、保育実践態度・グループワークの参加態度等を総合して判断します。
(9)成績評価基準	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解することができるか。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解することができるか。 3. 乳児保育における配慮の実践について具体的に理解することができるか。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解することができるか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：(元保育士) 実務経験と授業内容との関連性：(保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、3歳未満児の保育内容と運営体制について、実践的に分析、考察、検討する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト・・・寺田清美・大方美香・塩谷香編 「新基本保育シリーズ⑯ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版 2019年 参考図書・・・厚生労働省編 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018年 内閣府編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
(13)その他(受講上の注意)	・教科書以外の教材は、必要に応じてプリントを配布する。各自ファイルに綴じること。 ・数回、授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出された復習レポートは、重要ポイントをはじめ一人ひとりの質問等に対してコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴じること。 ・参考図書「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。 ・手作りおもちゃは、事前に案や作り方を考え、必要な材料・ハサミ、のり、糸や針等の用具を全て自分で準備して授業に臨み題材によっては授業までに大まかな準備をして、授業時間内に仕上げること。

	プレゼンテーションには、指定用紙に学籍番号・氏名・作品名・対象年年齢・ねらい・材料・工夫した点等をまとめて準備しておくこと。(授業後提出する)
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)■ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	国語	担当教員	平岡 正実
英語科目名	Japanese Language	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2152
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）		
科目に含めることが必要な事項	国語（書写を含む。）		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状（必修）
(3)授業の内容	小学校学習指導要領「国語」の内容を踏まえながら、小学校教諭として国語の力を身につける。
(4)授業の到達目標	自らの言語感覚を磨き、国語に対する関心を深めて、自信をもって小学校国語科の指導ができる。
(5)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1 回：全体の授業概要の説明及び受講における心構え 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編」第1 章を読んで質問事項をまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：授業での学修を参考にして「小学校学習指導要領解説国語編 第1 章」「幼稚園教育要領言葉」を読んで関連性をノートにまとめ第2回授業で提出すること。（2 時間） 第2 回：学習指導要領における「国語」について 事前学習：①「小学校学習指導要領解説国語編 第2 章国語科の目標および内容」を読んで質問事項をまとめておくこと。②各自が持っている国語便覧の「文学史」を読み、日本文学についてまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：①「小学校学習指導要領解説国語編」を読んで各領域における学年ごとの目標②時代を代表する文学の作品名や作者名、及び内容の概略の2 点について調べ、それぞれノートにまとめ第3回授業で提出すること。（2 時間） 第3 回：国語の基礎①声の表現 （ワークショップ） 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容 A話すこと・聞くこと P28～31」を読んで質問事項をまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：「話すこと・聞くこと」の活動を形態によって分類し、実際に行う場合の留意点についてノートに整理し第4回授業で提出すること。（2 時間） 第4 回：国語の基礎②漢字（送り仮名・仮名遣い）（実技） 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科」の付録3（学年別漢字配当表）を参考に漢字の復習をしておくこと。（2 時間） 事後学習：①現代仮名遣い及び送り仮名の付け方について例解辞典等で確認しておくこと。 ②都道府県名及び県庁所在地名をノートに漢字で正しく書き第5回授業で提出すること。（2 時間） 第5 回：国語の基礎③カタカナ・ローマ字 （実技） 事前学習：図書館や参考文献等でカタカナの由来やもとなった漢字、ローマ字表記について調べ、質問事項をまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：小学校3 年生の国語の教科書からローマ字に関する教材文を参考にして、ローマ字で50単語程度の日記を書いて第6回授業で提出すること。（2 時間） 第6 回：国語の基礎④ひらがな （実技） 事前学習：図書館や参考文献等でひらがなの由来やもとなった漢字、鉛筆の持ち方について調べ、質問事項をまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：ひらがなの字源を調べたり、文字の概形や組み立て方を確認したりして、字形指導の効果的な指導計画を立て第7回授業で提出すること。（2 時間） 第7 回：国語の基礎⑤板書・原稿用紙の使い方 （実技） 事前学習：小テストに備えて既習事項の復習をしておくこと。（2 時間） 事後学習：小テストの解答をもとに誤答を中心に復習すること。（2 時間） 第8 回：国語の基礎⑥文法・敬語 （実技） 事前学習：各自が持っている国語便覧の「口語文法」の項目を読み、質問事項をまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：口語文法と敬語に関する復習課題をやり第9回授業で提出すること。（2 時間）

	第9回：国語の基礎⑦古典（１）古文＜百人一首＞（グループワーク） 事前学習：各自が持っている国語便覧の「百人一首」の項目を読み、何首かは暗唱できるようにしておくこと。（２時間） 事後学習：百人一首に関する復習課題をやり第10回授業で提出すること。競技カルタのルールを習得しておくこと。（２時間） 第10回：国語の基礎⑧手紙文はがき文の書き方、N I E（実技） 事前学習：手紙文はがき文の書き方、時候の挨拶について調べておくこと。（２時間） 事後学習：新聞記事やコラムを活用したN I Eの学習指導計画を立て第11回授業で提出すること。（２時間） 第11回：国語の基礎⑨文章（小論文・随筆等）の書き方（ワークショップ） 事前学習：「ふくい風花文学賞 入賞作品集」を読んで感想をまとめておくこと。（２時間） 事後学習：著名人の随筆やエッセイを読み、書きぶりの特徴やよさについてまとめ第12回授業で提出すること。（２時間） 第12回：国語の基礎⑩熟語・慣用句他（グループワーク） 事前学習：自分が知っている「四字熟語」について読み方や由来、今日的な使われ方等についてまとめておくこと。（２時間） 事後学習：授業中に紹介された「四字熟語」の中で、意味がわからないものについて調べ、ノートにまとめたり、短文づくりをして第13回授業で提出すること。（２時間） 第13回：書写（実技） 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容（３我が国の言語文化に関する事項○書写）」を読んで質問事項をまとめておくこと。（２時間） 事後学習：小学校の書写教科書を読んで、書写教育の今日的意義についてノートにまとめ第14回授業で提出すること。（２時間） 第14回：指導者としての国語力（ディスカッション） 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編の付録3（小学校教育要領 第2章第1節国語）付録10（幼稚園教育要領）」を読んでまとめておくこと。（２時間） 事後学習：幼小の教育者として今日求められている国語力について自分なりの意見をまとめ第15回授業で提出すること。（２時間） 第15回：話す、聞くなどを含めた国語の力全体の総括及び小テストの解説 事前学習：小テストに備えて、既習事項の復習をしておくこと。（２時間） 事後学習：教育要領「言葉」や指導要領「国語」の記述を参照しながら、この講義を受講して具体的にどのようなことを学んだかノートにまとめ提出すること。（２時間）
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	学期末レポート（50％）、授業内の小テスト（30％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(9)成績評価基準	国語を学ぶ意義を理解し、提出物や実技を通して自らの国語の力を高められたか。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	経歴：（元小学校教諭・中学校国語科教諭） 実務経験と授業内容との関連性：（小学校教諭・中学校国語科教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容について講義する。）
(12)テキスト・参考図書	テキスト 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年7月 『国語（文部科学省検定済教科書）』 光村図書出版株式会社、小学校国語科用、令和7年2月（1年～4年 上・下巻、5・6年 通年1冊）
(13)その他（受講上の注意）	書写や実技の回では、その都度持ち物を指示します。各自で持参してください。
(14)オフィシアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－

科目名	国語科教育法	担当教員	平岡 正実
英語科目名	Teaching Method s of Japanese Language	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CE-B-2351
科目区分	人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目		
教員免許法施行規則上の科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法)		
科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
求める学習成果（教育目標）	教育・保育の内容の理解及び指導方法		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力
(2)資格・免許の要件	小学校教諭一種免許状(必修)
(3)授業の内容	学習指導要領に示された小学校国語科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。
(4)授業の到達目標	小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身につける。
(5)アクティブ・ラーニング	■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(6)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： 新学習指導要領における国語科の目標・内容・構造の特色とその背景 事前学習：テキスト「小学校学習指導要領解説 国語編」の第1章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「初等国語教育の基本的視点」について、テキスト「初等国語科教育」等を見直しノートにまとめ第2回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第2回： 発問 話し合い活動（課題解決型学習・発表） 事前学習：よい発問とはどのような発問か、よい話し合い活動とはどのような話し合いかについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：図書館や書店、インターネット等で、国語教育に関してどのような書籍や雑誌があるかを探り、見つけた本の内容や読んでみたい本についてノートにまとめること。(2時間) 第3回： 今日の課題「言葉による見方・考え方」、指導技術「ICTの活用」、板書の仕方（討議・実技） 事前学習：テキストの第2章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「メディアリテラシー・ICTの活用」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第4回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第4回： 国語科学習指導案の書き方、評価の仕方（実技・グループワーク） 事前学習：テキストの第4章(1・2)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと(2時間) 事後学習：「学習指導案が持つ意義と指導案作成の実際」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第5回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第5回： 教材研究の方法と学習指導案作成①「読むこと」の教育(物語文教材)（グループワーク・発表） 事前学習：テキストの第3章第1節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「文学的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第6回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第6回： 教材研究の方法と学習指導案作成②「読むこと」の教育(説明文教材)(グループワーク・発表) 事前学習：テキストの第3章第2節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「説明的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第7回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第7回： 教材研究の方法と学習指導案作成③「書くこと(書写を含む)」の教育（グループワーク・発表） 事前学習：テキストの第3章第3節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「書くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第8回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第8回： 教材研究の方法と学習指導案作成④「話すこと・聞くこと」の教育（グループワーク・発表） 事前学習：テキストの第4章(3)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。 「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書

	館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 事後学習：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第9回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第9回：教材研究の方法と学習指導案作成⑤「知識及び技能(言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化)」の教育(グループワーク・発表) 事前学習：テキストの第3章第1・2・3節(1 知識及び技能)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「国語の特質に関する事項・伝統的な言語文化」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第10回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスパワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第10回：模擬授業と省察①「読むこと」の教育(物語教材) (実技・グループワーク・討議) 事前学習：オフィスパワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめ第11回授業で提出すること。 自分が模擬授業を実施した場合は、指導案と授業について各グループの評価表を参考にし見直し、「協議から」と「感想」の2項目を付け加えて指導案を書き直すこと。(2時間) 第11回：模擬授業と省察②「読むこと」の教育(説明文教材) (実技・グループワーク・討議) 事前学習：オフィスパワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめ第12回授業で提出すること。(2時間) 第12回：模擬授業と省察③「書くこと(書写を含む)」の教育 (実技・グループワーク・討議) 事前学習：オフィスパワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめ第13回授業で提出すること。(2時間) 第13回：模擬授業と省察④「話すこと・聞くこと」の教育 (実技・グループワーク・討議) 事前学習：オフィスパワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめ第14回授業で提出すること。(2時間) 第14回：模擬授業と省察⑤「知識及び技能」の教育 (実技・グループワーク・討議) 事前学習：オフィスパワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの評価(良かった点・改善点)をまとめ第15回授業で提出すること。(2時間) 第15回：指導と評価の一体化(評価を指導に生かすための具体的な手立てと工夫) (課題解決型学習・発表) 事前学習：「初等国語教育の課題と展望」についてテキスト「初等国語科教育」の第15章を参考にしながら、ノートにまとめること。(2時間) 事後学習：テキスト②の第15章や図書館で調べたことを参考にしながら、「①この講義を受講して、具体的に学んだこと②学び続ける国語教師になるための努力事項」についてノートにまとめ提出すること。(2時間)
(7)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(8)成績評価方法	学期末レポート(50%)、授業内の課題レポート(30%)、 模擬授業の発表内容(20%)
(9)成績評価基準	「学習指導要領」等の基本を踏まえながら、児童の国語の力の育成に資する国語科学習指導案を作成し、実践することができる。
(10)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(11)実務経験のある教員(経歴及び実務経	経歴：(元小・中学校教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(小学校教諭・中学校国語科教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員

験と授業内容との関連性)	が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容およびその指導法について講義する。)
(12)テキスト・参考図書	テキスト 1. 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年3月 2. 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年7月 3. 『MINERVAはじめて学ぶ教科教育 1 初等国語科教育』 吉田 武男 監修、ミネルヴァ書房、平成30年3月 参考書・参考資料等 小学校国語科教育法(牛頭哲宏・森篤嗣著 ココ出版 平成24年) 小学校教育課程実践講座「国語」(樺山敏郎編 ぎょうせい 平成29年) 文学教材を深く読むための国語授業デザイン(三好修一郎編 明治図書 平成29年)
(13)その他（受講上の注意）	準備物については、その都度指示します。 指導案作成と模擬授業は個人でします。
(14)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)□ (11)－ (12)□ (13)□ (14)－